

新春特集

2022.1
No. 157

あきた建築士会ニュース



第 63 回建築士会全国大会 「広島大会」

第63回建築士会全国大会「広島大会」（東京都浜松町）の報告



第63回建築士会全国大会「広島大会」は、新型コロナウィルス感染拡大への警戒から急遽東京に会場を移し、11月20日（土）に港区浜松町の浜松町コンベンションホールに於いて、Web配信を主体に入場者数を大幅に制限して開催されました。秋田県は次期開催県ということで幾分多めの参加が許され、淡路会長をはじめ、役員、受賞者、事務局、総勢12名での参加となりました。

大会当日、会場には「あきた大会」のPRブースが設けられ、早朝からPR活動のスタートです。幟を立ててポスターを貼り、テーマカラーであるオレンジ色のナマハゲジャンパーを着装してスタンバイ。配布資料はポスターをあしらったクリアファイルとリーフレット、観光パンフレットですが、例年と違い受付のない閑散とした中、手渡しや声出しは厳禁「ご自由にお持ちください」の貼紙とジェスチャーのみで大会をアピールするという前代未聞のPR活動となりました。

大会は午前中の「セッション」から午後の「記念対談」までWeb中心で、全てをライブ配信するために各会場に配信用機材等が複数配備され、参加者よりもスタッフが多いセッション会場や、ソーシャルディスタンス配列の座席指定で事前登録が必要であるなど、次年度に向けて様々な課題を感じた各セッション、記念対談でした。



（なお、各セッションには秋田県建築士会の会員がオンライン参加し、発表とともに、さりげなく上手にあきた大会をアピールしてくれていました。）

セッション・記念対談の後は大会メインイベントの「式典」です。冒頭に広島県のオープニング動画が流れ、風光明媚な観光地や重厚な建造物など数多くの見所の紹介に、訪問できなかったことを改めて残念に思うとともに、「魅力ある広島に是非お越しください。」と流された最後のテロップには、広島県建築士会の方々の万感の想いが感じられ、胸に込み上げてくるものがありました。

連合会会長表彰では、秋田中央建築士会の櫻庭会員が全国の受賞者を代表し、近角会長から表彰を受けるという凛々しく素敵なワンシーンもありました。

そして式典もいよいよ終盤。大会旗の引継ぎが始まり、広島県の井本会長から連合会の近角会長へ、そして秋田県の淡路会長へと大会旗は無事に引継がれましたが、否応なしに秋田開催が現実味を帯びてきた瞬間

[\(P59へ続く\)](#)

目 次

新年を迎えて	新年のご挨拶	一般社団法人秋田県建築士会会長 淡路 孝次	2
	年頭のごあいさつ	秋田県建設部長 佐藤秀治	3
	年頭のごあいさつ	秋田県建設部建築住宅課長 中野 賢俊	4
事 業 報 告	第16回木の建築賞 二次審査あきた会場 実施報告		5
まちづくり委員会	全国大会広島大会まちづくりセッションの報告		8
青年委員会	第63回建築士会全国大会「広島大会」青年委員会セッション「地域実践活動発表会」報告		18
女性委員会	活動報告		21
投稿だより	「旧料亭 金勇」清掃ボランティア活動		28
会 業 報 告			29
地域会だより			31
誌 上 年 賀			35
新入会員紹介	新入会員からのメッセージ		51
事務局だより			51
定期講習会			57
編 集 後 記			58

新年のご挨拶



一般社団法人 秋田県建築士会会長 淡路 孝次

令和4年 謹賀新年

秋田県建築士会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年も皆様と共に、地域で暮らし地域の発展に寄与している建築士の地位向上と秋田県建築士会の発展の為、努力してまいりたいと思っております。本年もよろしくお願ひいたします。

ところで令和になって早4年、年を重ねるたびに月日の流れの速さを感じており、個人的には本年誕生年を加えて7度目の年男となります。また会長を拝命してから6度目の新年を迎えるました。

コロナで明けコロナへの対応に追われた昨年でしたが、それでも昨年9月WEB大会となりながらも第30回全国女性建築士連絡協議会福岡大会が開催され、秋田士会の女性委員の活躍が見られ、11月には全国大会広島大会が東京を会場としてハイブリッドで実施され、無事に大会旗を引き継ぐことができました。

本来大会旗引継ぎには大勢の会員と共に広島に赴き、秋田をPRしたいと考えておりましたが、それが叶わぬ残念でした。それでも青年委員と女性委員の皆さんのお知り合いで作成された秋田を紹介するビデオは、画像とマッチした楽曲と共に会場やネットを通じて全国の会員に配信され、多くの賛同を頂けたものと感謝に堪えません。

本年はいよいよ40年ぶりに開催される全国大会秋田大会の年、建築士会創立満70年を数える年でもあります。個人的には何かしらの縁を感じており、皆様と共に一つの目標に向かい、開催に向け活動できることに幸せを感じております。

話は変わりますが、旧年中は世界各地で温暖化によると思われる風水害が発生し、それも過去に経験したことのない規模での災害が発生しております。

記憶に新しいところではアメリカ大陸で発生した「スーパーセル」によるとされる巨大竜巻によって家屋に多大な被害が発生したことは、その被害の範囲と甚ださに驚愕しております。

一方、四方を海に囲まれ、温暖で四季それぞれの気候が和の雰囲気を醸し出してきた日本ですが、毎年起きる風水害の甚ださを見るに付け、地球の温暖化の影響を感じずにはいられない昨今であります。さらには日本列島では地震の発生や火山活動の活発化も言われており、気がかりであります。

日本人は自然環境と調和を図り、自然を敬い、自然と共に歩む生活をなしてきたと思います。その中から山々や木々に神々が宿ると考えた神道が発生し「やおよろずの神々」と唱えたと聞き及んでおります。

そのような意味からすると日本文化は
SDGs「持続可能な開発目標」
(SustainableDevelopmentGoals)
を掲げる世界的活動方針と合致しており、それ故日本文化を守り和のティストを世界に向けて発信することは個人的に重要と考えております。

建築物は、存在する地域の気候風土に根ざし存在しており、気候風土と調和を図ることによって持続可能なコミュニティーが形成されると思っております。

一方、建築士会も地域に根差し、地域の気候風土と調和を図りながら地域貢献を標榜する団体であり、人間社会が存続する限り持続する団体であると考えます。

皆様と共に今年も基本を忘れることなく、建築士及び建築士会の地位向上に努めたいと思っております。

会員諸氏にとって本年が良い年であること、災害のない年であることを祈念し、年頭にあたりましての挨拶と致します。

年頭のごあいさつ



秋田県建設部長 佐藤秀治

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年中は、本県建設行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大都市圏への集中の是正や生産拠点の国内回帰の必要性が再認識される中、今後は地方がその受け皿となるため、道路ネットワークの整備や港湾機能の強化、激甚化・頻発化する自然災害に対応する県土の強靱化等、県内経済を支え、地域の安全・安心に繋がるインフラの整備が一層重要になるものと考えております。

こうした中、昨年は、秋田自動車道「北上西ＩＣ～湯田ＩＣ」間約19.5kmにおいて、4車線化の事業が許可されたほか、国直轄権限代行により事業化された国道105号大曲鷹巣道路「大覚野峰防災」や秋田港と秋田北ＩＣを結ぶ「秋田港アクセス道路」の整備など、広域道路ネットワークの形成に向けて前進した年でありました。

また、洋上風力発電に関しては、基地港湾に指定されている秋田・能代両港において岸壁整備等の港湾機能の強化が進められるとともに、港湾区域内における発電施設の海上工事が着手されるなど、本県への大きな経済波及効果が期待されております。

さらに、県土の強靱化については、国の施策である「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づき、大規模地震に備えた構造物の耐震化やインフラの老朽化対策を加速化していくとともに、ハード・ソフト一体となった流域治水対策の取組を進めております。

加えて、建築物・住宅についても耐震化を促進すべく、昨年3月、「秋田県耐震改修促進計画」の見直しを行い、第3期計画をスタートさせました。本計画の中では、住宅の耐震化率を令和7年度末までに、現行の84.8%から95%に引き上げることを目標としており、この達成に向け、木造住宅耐震診断士派遣事業を実施する市町村に対し支援を行うなど、引き続き耐震診断、耐震改修の促進に取り組んでまいります。

脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策については、改正建築物省エネ法が昨年4月から施行され、中規模の建築物にも省エネ基準適合義務が拡大されたほか、小規模の住宅・建築物の設計を行う際には、建築士から建築主に対して省エネ性能に関する説明が義務づけられたところです。建築物省エネ法に限らず、建築基準法、建築士法など様々な制度改正について、引き続き、建築士会等関係者の皆様へ、迅速な情報提供に努めてまいります。

今後も、産業振興や交流人口の拡大等に繋がる社会資本の整備や防災・減災、県土強靱化の更なる対策を加速化するとともに、災害対応や除排雪作業など地域を支える建設産業の担い手の確保や労働環境の改善、生産性の向上に向けた取組を推進し、本県の持続的発展と県民の安全・安心を支える社会基盤の構築に向けて取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。

年頭のごあいさつ



秋田県建設部建築住宅課長 中野 賢俊

会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から県の建築・住宅行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

国内における新型コロナウイルス感染症は、一旦、収束状態にあるものの、世界的には「オミクロン」なる新たな変異株の脅威が迫っており、日本でも水際対策の強化が図られるなど、新年も引き続き「ウィズコロナ」の生活が求められることとなりそうです。
(執筆現在)

仮に第六波があったとしても、深刻なものとならないよう、心から願わざにはおられません。

一方、この「コロナ禍」は、建築住宅業界にも、様々な影響を及ぼしております。

米国における在宅勤務の普及等が木材需要を活性化させたことに起因する「ウッドショック」や、東南アジア諸国でのコロナ感染症拡大が生産工場の稼働に影響した「給湯ボイラーなど住設機器の納期遅延」は、未だ収束していない影響の一例です。

加えて、スエズ運河でのコンテナ船座礁事故が世界的規模でサプライチェーンに及ぼした影響や、地球温暖化対策のCO₂削減の取り組みが、これも世界的規模で自動車の電動化推進に拍車を掛け、そのことなどによる半導体不足が住設機器の基板不足にも影響を及ぼすなど、様々な要因がコロナ禍と複合的に影響し合い、今日の状況に現れているのではないかと考えます。

「風が吹けば、桶屋が～」とも言われますが、世界的な規模での情勢変化が、秋田における日常の社会生活に対しても、これほどまでに影響を及ぼすものかと、痛感した一年だったと思う今日この頃です。

また、昨年は、新年早々から県南内陸部を中心に災害レベルの大雪に見舞われたほか、沿岸部では低気圧の通過に伴う暴風雪が、建物の損壊のみならず停電も引き起こし、そのことが広範囲に給湯器の凍結被害を生じさせるなど、これまでに記憶に無いような被害があったことも、記憶に新しいところあります。

特に、日常生活に欠かせない給湯器は、生活の質の維持にも関わる重要な住設機器であり、昨今の供給遅延と重ならなかったことについて、胸をなで下ろすところです。

災害は、いつ何時、発生するとも限らないことを心に留めつつ、地震はもとより、暴風、水害、雪害、落雷被害など、自然の猛威に対する心構えと備えの大切さを改めて認識した一年でもありました。

話題を変えます。今年10月には、昨年から延期になった「第64回 建築士会全国大会」が、新装オープンとなる「あきた芸術劇場ミルハス」を主会場に、いよいよ開催の運びとのこと、誠に喜ばしくお祝い申し上げます。

延期となった間も練りに練った趣向が活かされ、全国の建築士が秋田に集い、様々な交流を通じて「あきた」を感じていただけることに、この地で建築に携わる者の一人として、歓びを禁じ得ません。

関係された秋田県建築士会の皆様の、これまでのご苦労はいかばかりであったかと存じます。

結びになりますが、本年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますよう、併せて「第64回 建築士会全国大会」の成功を心からご祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。

事業報告

2021.10.30

第16回木の建築賞 二次審査あきた会場 実施報告



第16回 木の建築賞

2021年度 東北地区（青森県、岩手県、宮城県、山形県、秋田県、福島県）
応募期間 2021年7月1日（木）～8月15日（日）

第16回を迎える『木の建築賞』は、今年度からNPO木の建築フォラムと公益社団法人日本建築士会連合会との共同で開催されることになりました。全国を7地区に再編して建築士会全国大会に合わせて連携して実施する事となり、その最初の開催が「あきた大会」との連携となりました。



一次審査あきた会場 游学舎

初の共同開催に向けて事務局補助として準備を進めていましたが、コロナ禍による全国大会の延期に伴い木の建築賞も延期。一年越しとなつた今年、対象エリアの東北各県から建築物や活動等の作品42点のエントリーがあり、9月15日にオンライン方式による選考会が行われて、21点の作品が二次選考会へと選定されました。

二次選考会は、例年、木造建築物会場に発表者・選考委員・聴講者が集い、プレゼンを経て選考していましたが、今回はコロナの警戒レベルが高く、



選考委員の皆さん



会場内の雰囲気

従来型の選考会は困難と断念していたところ、警戒レベルの引き下げもあり、秋田県会場だけでも関係者が集った方式にすることを提案し、それを快諾していただき、選考委員と秋田会場とを結んだ変則的なオンライン選考会が実現することになりました。

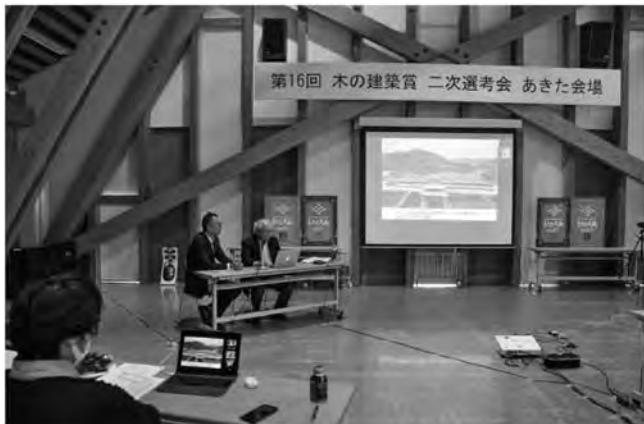
初めての対応で不安だらけの二次選考会は、会員有志の協力のもと 10 月 30 日に「秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎」にて開催されました。会場には、設計者でもある安藤邦廣選考委員を始め板垣直行、井上誠各客員選考委員、県内プレゼンターの参集を頂き、全国各地と繋ぎながらの選考会は、多数の県会員の来場やWEB 視聴と相まって、思いのほか盛会で、東北各地域の木の建築・活動に関する議論の醸成に貢献できたものと感じています。会員の協力があって充実した選考会になった事に感謝致します。

2021.11.02

第16回木の建築賞 二次選考通過リスト

作品・活動	作品集番号	建築の名称/活動の名称	応募責任者	所属	所在地	備考
作品	1	東松島市立宮野森小学校	工藤和美	東洋大学／シーラカンスケイアンドエイチ株式会社	宮城県	メンバーズチョイス賞
作品	2	陸前高田市立氣仙小学校	土屋辰之助	株式会社土屋辰之助アトリエ	岩手県	
作品	3	鶴岡市立朝日中学校	後藤章子	鶴岡市教育委員会管理課施設係	山形県	
作品	7	大槌町文化交流センター「おしゃつち」	永松航介	前田建設工業株式会社	岩手県	
作品	9	道の駅たのはた 思惟の風	古谷誠章	ナスカ一級建築士事務所	岩手県	
作品	10	道の駅ふたつい	西方里見	設計チーム木協同組合	秋田県	
作品	12	はじまりの美術館	竹原義二	有限会社無有建築工房	福島県	
作品	15	美郷アトリエ	佐藤欣裕	有限会社もるくす建築社	秋田県	
作品	17	川谷のアトリエ住宅	辺見美津男	有限会社辺見設計	福島県	
作品	19	英照院本堂・山門	越智隆浩	有限会社DXE一級建築士事務所	山形県	
活動	20	ノーザンステーションゲート秋田	木村英明	東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社	秋田県	

※メンバーズチョイス賞は、二次選考会時の得票数が最も多い作品(活動)です。



秋田県内の作品発表

三次選考に残った11点については、選考委員が公開現地審査を行い、1月下旬に開催する最終選考会で各賞の受賞者が決定する予定となっており、表彰は木の建築フォラム通常総会にて、作品公開や紹介は来年10月の建築士会全国大会あきた大会と連携して実施される予定となっています。

(一社) 秋田県建築士会 事務局

第16回木の建築賞 2次選考会プログラム

共催：NPO木の建築フォラム・公益社団法人日本建築士会連合会

特別協賛：株式会社山長商店／公益社団法人日本建築士会連合会 東北ブロック会／前田建設工業株式会社

協賛：公益財団法人日本住宅・木材技術センター／株式会社総合資格／一般社団法人全国木材組合連合会 東北支部／一般社団法人アーキテクton奈良／株式会社タニタハウシングウェア／東北電力株式会社秋田支店／一般社団法人日本木造住宅産業協会／株式会社ストローグ／株式会社シェルター／一般社団法人日本CLT協会

協力：一般社団法人ウッドマイルズフォーラム／一般社団法人秋田県建築士会／建築士会東北ブロック会／NPO木の建築フォラム会員有志

後援：林野庁

会場：オンライン開催

日時：2021年10月30日(土) 入室・受付：9:00～

(注) プログラムの進捗状況により、各発表時間が前後する場合があります。予めご了承下さい。

番号	発表時間	応募責任者	応募責任者所属	発表者	作品・活動名称	所在地
09：30～09：45 開会・木の建築賞委員長挨拶・選考委員紹介など						
1	09：45～10：00	工藤 和美 イチ株式会社	東洋大学／シーラカンスケイアンドエ	東松島市立宮野森小学校	作品	宮城県
2	10：00～10：15	土屋辰之助	株式会社土屋辰之助アトリエ	陸前高田市立氣仙小学校	作品	岩手県
3	10：15～10：30	後藤 章子	鶴岡市教育委員会管理課施設係	鶴岡市立朝日中学校	作品	山形県
4	10：30～10：45	相坂 研介	相坂研介設計アトリエ	てぞーろ保育園	作品	福島県
5	10：45～11：00	本間 充一	株式会社本間總合建築	いろどりの丘	作品	宮城県
6	11：00～11：15	小野泰太郎	株式会社小野建築研究所	秋田県動物愛護センター ワンニャビアあきた	作品	秋田県
7	11：15～11：30	永松 航介	前田建設工業株式会社	大槌町文化交流センター「おしゃっち」	作品	岩手県
8	11：30～11：45	後藤 智揮	株式会社後藤総設計室	ビーカンナツツ苗木育成研究施設	作品	岩手県
12：00～13：00 昼食						
9	13：00～13：15	古谷 誠章	ナスカ一級建築士事務所	道の駅たのはた 思惟の風	作品	岩手県
10	13：15～13：30	西方 里見	設計チーム木協同組合	道の駅ふたつい	作品	秋田県
11	13：30～13：45	朽尾 直也	トリブル 株式会社to-ripple	大槌相馬焼松永窯	作品	福島県
12	13：45～14：00	竹原 義二	ムウ 有限会社無有建築工房	はじまりの美術館	作品	秋田県
13	14：00～14：15	富永 祥子	工学院大学建築学部建築デザイン 学科 富永研究室	旧蚕糸試験場新庄支場改修プロジェクト	作品	山形県
14	14：15～14：30	眞木 敏	株式会社シェルター	高惣木エビル	作品	宮城県
15	14：30～14：45	佐藤 欣裕	有限会社もるくす建築社	美郷アトリエ	作品	秋田県
14：45～15：00 休憩						
16	15：00～15：15	鈴持 大輔	鈴持工務店 番匠一級建築士事務所	月山を望む家	作品	山形県
17	15：15～15：30	辺見美津男	有限会社辺見設計	川谷のアトリエ住宅	作品	福島県
18	15：30～15：45	閑 清	閑設計	常安寺 五重塔	作品	山形県
19	15：45～16：00	越智 隆浩	ディーバイイー 有限会社DXE 一級建築士事務所	英照院本堂・山門	作品	山形県
20	16：00～16：15	木村 英明	東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社	ノーザンステーションゲート秋田	活動	秋田県
21	16：15～16：30	池田 浩二	株式会社NTTファシリティーズ 東北 支店	奥州万年の森メガソーラー 森と共生し、森を 守る活動	活動	岩手県
16：30～17：00 投票・休憩						
17：00～18：45 統括討論会・選考決定・閉会						
18：45～20：00 参加者・講師等によるフリートーク時間(※参加任意)						

まちづくり委員会

全国大会広島大会まちづくりセッションの報告 【活動状況の見える化】【全国大会発表・準備】

まちづくり委員長 小原正明

当会のまちづくり・地域貢献については、これまで各地域会や青年・女性委員会が独自に活動しており、まちづくり委員会ではこれらの活動を支援強化したいと考えています。

日本建築士会連合会では、全国大会まちづくりセッションやまちづくり会議、まちづくり賞など、全国の建築士会とともに多くの事業を実施していますが、これらの情報や技術的知見が当会に届きにくく、また、当会の活動成果を全国に発信しにくい状況となっています。

全国の建築士会の活動状況とともに、あきた大会セッションでの役割を認識するため、まちづくり委員が広島大会セッションの情報を収集しましたので、ぜひご覧ください。

景観・街中（空き家）まちづくりセッション

まちづくり委員会副委員長 櫻庭 徹
まちづくり委員会副委員長 鈴石 博実

テーマ「街中の建物の維持管理と建て替え等による景観の向上」

■群馬建築士会「前橋市における住民主導のエリアマネジメント体制構築に向けた取り組み」

- 1 地域再生エリアマネジメント負担金制度（日本版BID）
- 2 空き家調査で明らかになったエリアマネジメントの重要性
- 3 広瀬川BIDの目指す方向性

■群馬建築士会「ただ今、実家空家利活用計画中！」

- 1 突然空家所有者！
- 2 空家所有者のストレス
- 3 信頼できる相談者
- 4 歴史、土地や風景の記憶をつなぐ

■静岡建築士会「景観整備機構によるまちづくり活動の実績と検証」

- 1 なぜ景観整備機構になろうとしたか
- 2 景観整備機構は何をしてきたか
- 3 どこで、どのように取り組んできたか

趣旨説明 街中（空き家）まちづくり部会 高橋部会長

事例報告 4例（景観2・街中2）

1. 「前橋市における住民主導のエリアマネジメント体制構築に向けた取り組み」

発表者 前橋工科大学准教授 堤洋樹、群馬建築士会 高橋 康夫

[内容・感想] 新しいまちづくりの手法といえる BID。群馬県前橋市で発表者が学生と地域を巻き込み試みようとするまちづくりの事例発表。地域再生エリアマネジメント負担金制度（日本版 BID：Business Improvement District）の試みに注視したいと思えた。

※ BID が通常のまちづくりや地方活性化制度と大きく違うのは、その運営資金を公の補助金やチャリティーなどに頼るのではなく、BID 区域内の受益者（住民は除く）が自ら負担するという点。

2. 「ただ今、実家空家利活用計画中！」

発表者 奈良県建築士会奈良支部 前田 晴子

[内容・感想] 建築士である発表者の実家が空き家になってからの取り組みの紹介。建築士であっても試行錯誤している話がされ、一般の方にすると、様々な相談できる場所が必要であることが痛感される。地域建築士会が担っていけるように行政との連携が大切であると思う。

3. 「景観整備機構によるまちづくり活動の実践と検証」

発表者 静岡県建築士会 塩見 寛

[内容・感想] 景観行政団体は、良好な景観の形成のための業務を適切に行う公益法人や NPO 法人を景観整備機構として指定することができることから、静岡県をはじめ、県内の 5 つの市より景観整備機構として静岡県建築士会が指定され、自主事業、受託事業、その他事業を行っている事例の紹介。受託事業を行えるように建築士会としての PR を行い現在の活動を行っている様子。

4. 「悠久の歴史と自然が織りなす宮島の世界に誇る景観の保全に向けた取り組み」

発表者 廿日市市建設部都市計画課 二宮 理

[内容・感想] 広島県宮島での行政としての取り組みの紹介。重要伝統的建造物群保存地域に指定されたのが令和 3 年 5 月。建築士会や HM との協力体制はこれから様子。伝建での取り組みに関して、建築士会との直接の関係ではないものの、横手市増田は発表事例となり得ると思えた。

パネルディスカッション

・パネリスト 事例報告者	・コメンテーター 森崎輝行まちづくり委員長
・コーディネーター 豊永景観部会長	・進行 高橋街中（空き家）部会長

事例報告 1 に関して

[群馬前橋 堤洋樹] 行政の担当者・首長が変わると方針の変更などがあり、まちづくりに行政の仕組みは問題があるので、継続的にできる仕組みが必要である。お金をどう回していくかが大切で、それについて BID が有効だと思っている。

[森崎] 日本でいろいろと BID を試されたがこれまでうまくいかなかった。群馬の取り組みに期待する。

[豊永] 地域に関して、同じ価値観を持つことが大切になってくる。

事例報告 2 に関して

[森崎] なぜ、自分で図面を描かなかったのか？ 結果、自分でやらずに相談したことが人の輪を広げていく結果になっている。「空き家相談・診断・助言マニュアル」兵庫建築士会作成を参考にしてください。※ <http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/machizukuri/bukai/machinaka.html> でダウンロードできる

事例報告3について

[塩見] 景観整備機構を理解のある士会会長の同意で行った。

[豊永] 景観整備機構をもう一度、士会で取り上げていく必要があると思う。

熊本建築士会でも景観整備機構になっているが実働は行えていない。静岡の状況を教えてほしい

[塩見] 景観整備機構になんでも事業が来ない。指定を受けても、営業、働きかけを行わないと仕事は来ない。どんどん営業するべき。仕事は士会の地区士会で行った。

[森崎] 建築士会は事務所登録していないので単独で仕事はできない。景観整備機構、静岡の建築士会、静岡ヘリテージセンター SHEC（景観整備機構の内部組織）など関係性が良く組織がしっかりとしているために仕事を受注できるように思われる。地域密着・景観責任・仕事連環のうち仕事連環が一番大切なことと思えます。

事例報告4について

[高橋] 宮島口のコンセプトを決めるとき、行政自前でやられたのか、コンサルでやられたのか？

[廿日市市役所] 宮島口まちづくり国際コンペをもとに内部、外部の人で話し合い決めている。

景観ガイドラインはワークショップを重ね決めている。

[森崎] 景観は地域、文化、生活にもとづくのは非常に大切であると思う。固有性がガイドラインに出せているだろうか。数値だけでなく理念が大切になると思う。

[廿日市市役所] 廿日市は5つの町が合併していますが、それぞれの地域の特性を生かしてのまちづくりが行われています。

まとめ

空き家・景観まちづくり委員会の合同セッションのため、共通するテーマとなっており、それぞれを掘り下げるまでにはいたっていない気がする。その中でも、仕事連環ということが、日頃、淡路会長が言っている事でありそれぞれの課題を仕事、事業に結び付けていくことが大切だと思う。

秋田県では秋田市、横手市、仙北市、小坂町、大潟村、北秋田市、にかほ市、鹿角市8つの景観行政団体がある。規制だけの景観条例ではないと思うので、静岡の例を参考に建築士会で行えることを検討出来ればよいと思えた。その際は、空き家、歴史まちづくり部会との連携が必要であるとともに、地域建築士会の協力が何より力になると思う。

歴史まちづくりセッション全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会

まちづくり委員会（鹿角） 畠山泰三

「テーマ：歴史的建造物とまちづくり」

今回参加するセッションの選定にあたり、鹿角地区の小坂鉱山事務所（国指定重要文化財）の部分修繕工事のため現場を調査・確認する機会があり、また同行した施工業者から過去の文化財建造物の移転・復元工事の内容を聞き、その文化財の歴史的遺産・重要性を感じていたことから「歴史的建造物とまち

づくり」のテーマを拝聴させて頂きました。

広島県の四地域の建造物とまちづくり活動内容を拝聴し、主要な活動を項目化します。

1) 竹原市（竹原街並保存地区：製塩のまち）

- 高架線（電柱等）：地下埋設化
- 保存（修繕工事）の市補助制度 例：シロアリ駆除補助制度
- 保存地区の観光化（イベントの実施）
- 住民の取組：防災訓練
- 修繕工事：子供達の体験の実施

2) 呉市豊町御手洗（素朴な街並み）

- 歴史街並観光振興協議会設立
- 伝統的建造物群保存地区の条例制定
- 空家のリノベーション（ギャラリー・玩具資料館）
- 住民の取組：ボランティア観光ガイド、歴史の勉強会・歴史講習会

3) 宮島町（歴史で成り立っている街並み）

- 保存会メンバーのネットワーク
 - ・街並み研究会 建築士（耐震化の研究）
 - ・工務店の会 施工業者
 - ・宮島家に親しむ会 住民
- 伝統行事の継承

質疑・課題

- 宮島町 保存改修費予算
2400万／年間（市予算化）
施工実施件数：2件／年間
- 歴史的建造物を未来へどう保存していくか。
 - ・観光化
 - ・新しい活用方法の模索
 - ・空家をどう活用していくか
 - ・イノベーション（内装改修）の補助化
 - ・くらしを守るための保存（現在の環境保存）

コーディネーターからの提言

※ 保存は何のために行うのか。

欧洲イギリスを例にとると、建造物・街並みの保存は「住民のプライド」であり「住んでいることの街への愛情」である。このことが街づくりの中心であるべきことである。

まとめ

広島県四地域の建造物・街並み保存の実践報告は、地域に住む住民と連携した取組みとして行っていることに私自身勉強させられました。

何のために建造物の保存・街並みの保存を行うのかは「街への愛情」であるということに感銘し、そのためには歴史を学ぶことが重要であると感じました。

また、保存の取組みは長期に渡ることの大変さを感じ、建造物の修繕やイノベーションのハード面と、地域住民と連携した取組みとしてのソフト面をどうマッチングさせるかが非常に難しいことであると思いました。

司会：全国協議会運営副委員長 内田美知留（東京）

司会：広島県建築士会 H 委員会委員長 濱井氏

■開会あいさつ：全国協議会委員長 後藤治

■趣旨説明：歴史まちづくり部会長 青木伊知郎

■パネルディスカッション（広島より）

コーディネーター 藤田盟児（奈良女子大教授）

○竹原市

竹原市総務企画部総務課 井上顕良氏、市教委文化生涯学習課 新潟豊氏

・塩田のまち、重伝建

普及啓発：補修工事に子供も参加、建築文様ワークショップ

○呉市 ～10:51

呉市文化スポーツ部文化振興課 里田謙一氏

・地域住民による会が歴史勉強会・一輪挿し活動・観光案内所の運営

○福山市 「鞆町（港町）重伝建地区の概要とまちづくり」

福山市経済観光局文化振興課 奥家彰一氏

・2007～8年で建築調査：昭和戦前470件、江戸時代80件が判明

・伝統的建造物の特性紹介（凹凸のある軒高）

・生活道路の必要性・バイパス整備と建物補修の同時並行

○廿日市市 「宮島町（門前町）重伝建地区の概要とまちづくり」

○発表後、コーディネーターよりまとめ（藤田氏）

・各市の歴史・産業の特徴のみ説明

Q 空き家対策とまちづくりについてどう考えるか（@広島 コーディネータより）

・（竹原市）：歴史価値あるものは市で保存を目指している、一般は空き家バンクに紹介。

・（呉市）：一般は、空き家バンク

■東京会場司会：大橋智子→広島会場へ

Q. HMに期待することは

・（福山市）：業者の技術はまだ高くないので技術向上に努めたい。

・（竹原市）：設計事務所はHM取得が増えているが、施工業者は少ない。講習に参加していない。

自治体間の連携が進んでいない。

・（呉市）：大工の高齢化と技術の継承が課題。

・（宮島）：職人（左官・大工）の減少、工務店にもHMいる。そういう人に受けてほしい。

・（藤田）：まだ広島は、自治体・施工業者にHMがいる方だ。建築士のみではなく、広くHMを受けてもらい、意識を共有する必要があると感じている。

Q. 宮島の重伝建の指定が最近になった（時間がかった）理由は（宮島に）

・H15ナショナルトラスト調査からスタートしていたが、土砂災害や既に史跡指定もされていたことから、住民の理解・協力に時間がかった。

Q. 今後地域をどのように活用していくか。また課題は？

- ・(福山市)：保存し価値を高め、集客をしたい。
- ・(呉市)：老朽化した市の建物などの空き家の活用。
- ・(廿日市市)：賃貸で貸してでも、活用したい。改修についての補助事業も行う。インバウンドを狙い、国交省の補助金も使いながら、宿泊施設などの内装改修も支援している。
- ・(藤田)：観光客対応の視点（整備）ではなく、重伝建の制度をつかって、今のまま守り続ける考え方もある。

Q. 4地区が連携をする試みはあるか？

- ・(藤田)：今後の課題かなあ。

Q. 天井裏に土をのせている民家がある。火事を防ぐためのものか？

- ・(藤田)：新しい発見かも。確かにそういう建物は見られる。

■今後の展望：全国協議会委員長 中西（3分）

- ・発表した行政の4人とも、HMの役割を理解していただいている。
- ・HMと住民との関わり、情報発信をしているところが望ましい

■アンケートへの書き込みを呼びかけて終了。

- ・修理の状況・技術の共有機会を作っている。秋田でもそのような機会が欲しい
- ・4人とも行政の人が発表。構成もほぼ同じであったため、どう広げるかが課題と思われた。
- ・報告15分×4人=60分は長いと感じた。パネルディスカッションは盛り上がって欲しいと感じた。
- ・これまでの取り組みの発表が中心だったため、今後どのようにしたいか、課題は何かがあればいいと思った。

「木の建築」「木のまちづくり」シンポジウム

まちづくり委員会副委員長 大 高 勇

テーマ～今求められる木の建築・木の活動とは

木の建築賞の活動とこれから 木の建築賞を語る

会場参加者 司会 山崎健治（NPO木の建築フォラム事務局）
 パネリスト 安藤邦廣 三澤文子 泉幸甫 杉本洋文 内田文雄
 会員 9名（木のまちづくり部会） フォラム事務局2～3名
 広島大会スタッフ数名（Web機材担当及び会場担当）

10：00～ 挨拶と木の建築賞の活動内容説明

パネリスト5名の自己紹介と安藤氏による木の建築賞の活動内容説明

10：15～ 第15回木の建築賞大賞受賞者 内田文雄氏による受賞作品のプレゼン
 茂木町まちなか文化交流館「ふみの森 もてぎ」（栃木県）



会場配布スケジュール



開始前の会場の様子

内田文雄+龍環境計画 ～配布資料無し～モニターにて説明

300年続いた酒造蔵元の跡地に計画。「図書館情報」「歴史資料展示室」

「展示・町民ギャラリー」「体験研修室」「ブックカフェ・まちかどサロン」

等が複合する町民のための施設。構造材や仕上げ材に町が育てた町有林を使用し、流通材サイズにて大きな空間を構成。元々その場所にあった「仕込み蔵」や「土蔵」を残して架けられた木製アーケードも魅力的な景観となっている。

10:45～

パネルディスカッション（木の建築賞の活動とこれから）～意見を箇条書き～

- ・木の建築賞応募作品の変遷～当初は住宅が多かったが、近年大規模な施設、公共建築物や校舎、道の駅などが多くを占めてきている。
- ・この度、第16回の二次選考会を終えたばかりだが、JR、NTT等大きな企業、団体からの応募もあり、更には大変珍しい五重塔の作品もあった事は驚きだった。
- ・これが木造かと衝撃を受けるような作品に未だ出会っていない。いい意味で尖がったデザインを期待したい。
- ・過去15回の開催の中で様々な作品と出会えた。強く印象に残った作品も数多く、その中には決して他の構造と引けを取らないデザイン性に優れた木造もあった。
- ・これからの中には、近年もそうではあるが、地域環境、地球環境の未来を見据えた建築、人が安らかに暮らし気持ちよく働く空間を施した建築、森林資源の再生可能を考慮し実践した建築等である。

11:20～

まとめと木の建築賞応募の呼びかけ

新型コロナの影響で2020年に予定された第16回が1年延期となったが来年17回は引き続き開催できると思うので是非沢山の作品の応募を期待したい。

地域に戻って多くの呼びかけをお願いします。



木の建築フォラム主導のセッション終了 パネリスト会場より退場

11:40～ 木のまちづくり部会 ～予定より開始が10分以上オーバー
会場参加者 9名 Web参加者 約32名

1. 部会長の三井所氏より 第1回木のまちづくり部会としての挨拶

士会誌7月号P32～33に載せた文書の説明～

- ・京都大会の「山とまちと木造建築」の意思を受け継ぎ4年間準備して設立
- ・建築士が木の文化と林業を絶やしてしまうのではないか
- ・分断されている山とまちを血が通うつなぎ役としての建築士

下記文書（事前配布）読み上げ説明

2. 三井所部会長と 古川氏（熊本）、足立氏（島根）、大桃氏（福島）との意見交換

その他の会場参加者からの意見（所見）を求めた～時間が押しているので端的にと～

赤川氏（神奈川）、大高（秋田）、武田氏（東京）の順で発表

三井所部会長よりWeb参加の田上氏（和歌山）へ、山長商店（老舗林業製材業）に関する情報、意見を求めた。

まとめ

・ウッドショック ・川上から川下まで潤う木への取り組み ・CLTに関する情報

・気候風土適応住宅への関わり、取り組み ・中大建築物との関わり

これまでの情報交換で多く出てきたワードを順にまとめてみましたが、木の部会での結論、着地点がどこにあるのかという意見が私も含めて複数回出ました。

これに対して木のまちづくりでは発足して1年と、未だ始まったばかりで何をどう進めて行くかも未知数の状態である。この先も「木」に関する様々な分野の情報をメールで共有しながら意見交換していきたい、との部会長の談でした。

福祉まちづくりセッション

まちづくり委員会（由利建築士会）周防敦子

テーマ コロナ渦から見えてきた「福祉まちづくり部会活動の姿」

〔概要〕

第63回建築士会全国大会「広島大会」

会場：浜松町コンベンションホール（ZOOMによる視聴）

日時：令和3年11月20日（土）10:00-12:00

〔セッション内容〕

1. 主旨説明（中村正則氏）

コロナ渦でも ZOOM を利用しての各地の福祉まちづくり部会の活動の報告。

2. 事例発表 1-1-1 : 各建築士会の福祉部会の活動報告（11人 @3分）40分

1 : (公社) 岐阜県建築士会 まちづくり委員会 福祉まちづくり部会

2 : (公社) 新潟県建築士会 新潟福祉まちづくり研究会

3 : (一社) 千葉県建築士会 福祉まちづくり小委員会

4 : 神奈川県建築士会 技術支援委員会 福祉部会

5 : (公社) 徳島県建築士会 バリアフリーデザイン研究会

6 : 宮崎県建築士会

7 : (一社) 奈良県建築士会 女性委員会 福まち部会

8 : (一社) 群馬県建築士会 福祉担当

9 : (公社) 愛知建築士会 まちづくり委員会福祉部会

10 : 沖縄建築士会 まちづくり委員会 福祉のまちづくり

11 : (一社) 三重建築士会 防災福祉まちづくり委員会

3. 自由検討

① ZOOM の開催について

→事務局のアカウントを使用する場合、他の委員会との時間調整が必要・リアルで会うのも大切・オンラインにする事で他団体も参加しやすい等意見がありました。

②高齢期における住宅改修の講習会等について

③コロナ渦をすぎた今後の活動について

4. 質疑応答・まとめ（中村正則氏）

〔まとめ（秋田発信のテーマ）〕

秋田県の福祉のまちづくりは『高齢者や障害のある人等を含む誰もが、自らの意志で自由に行動し、安全に快適に生活ができるバリアフリー社会の形成』を基本計画としています。そのなかでも心のバリアフリーを大切にしている。共に支え合い困っている人がいたら手を差し伸べようという暖かい心の形成を大切にするのは秋田らしさを感じます。

秋田は少子高齢化率が全国1位。少子高齢化先進県である秋田の活動を見てもらい、知ってもらう事は各地域での課題を見つめ直すきっかけにもなるのではないでしょうか。

持続可能な社会をめざす上で誰もが自分が出来ることで社会に参加し、それを認め共に支え合える社会になってほしいです。

防災まちづくりセッション

まちづくり委員会副委員長 佐々木 昭 仁

ステップ1 はじめに

平成26年から防災まちづくり部会の活動を開始している。

実績 冊子「建築士会事前防災活動指針（風水害・地震対策用）」作成済み

→各県へ1冊配付している。（事務局に確認要）

※連合会HPにアップ済み

bousai_guideline.pdf (kenchikushikai.or.jp)

ステップ2 アンケート実施

回答実績 29 / 47 都道府県

※私（秋田県）には、アンケートが届いておりませんでした。

これは私が自宅の光回線変更のため、メールアドレスが使用できなくなったことが原因と思われたので、セッション中にメーリングリストの更新をお願いしましたが、防災部会からではなく、各県において、隨時、更新を行い、提出してほしいと会場で連絡がありました。

→【事務局へのお願い】キチンと実施されていると思いますが、あらためて毎年度各部会の地域リーダーの名簿を更新し、連合会へ提出するようにしてください。

・今年度の活動状況（29件）

研修、相談会など	21件
活動なし	8件

・来年度の活動予定

応急危険度判定の研修	20件
マニュアル作成	7件
相談会等の地域貢献活動	3件
行政との協定締結	1件

※防災まちづくり部会で推進するべきもの（全国大会において掲示あり）

応急危険度判定、罹災証明発行補助、木造建築物耐震改修判定など、自然災害対応マニュアル作成、相談会の開催

ステップ3 被災地報告

・熊本県士会 本部 令和2年熊本豪雨災害

・岡山県士会 倉敷支部 平成30年西日本豪雨災害

※参考とすべき資料

住宅相談マニュアル（長野県士会）、浸水家屋復旧概算シート（東京都建築士会）、水害に備えて（岡山県建築士会倉敷支部）

※各建築士会HPで公開中

ステップ4 秋田県建築士会での防災まちづくり活動の方向性

各県の取り組み実績から、秋田中央ではすでに建築士の日のイベントにおいて、無料の相談会を実施しています。よって、既に活動報告は可能です。

青年委員会

第63回建築士会全国大会「広島大会」 青年委員会セッション「地域実践活動発表会」報告

青年委員会委員（雄勝湯沢建築士会） 加 納 大 輔

開催日時：令和3年11月20日（土）10：30～11：30（オンライン）

これまで、全国大会での青年委員会による地域実践活動報告は、各地域ブロックから選出された代表が発表を行ってきたが、新型コロナウィルスの影響により今回は立候補制となった。12の都道府県から立候補があり、事前の予選会により上位2県が選出された。本セッションにて選出された2県の発表のうち最優秀賞、優秀賞が決定された。

■プログラム

- ・綱領唱和
- ・連合会青年委員会工藤副委員長あいさつ
- ・プログラム説明
- ・第一部 地域実践活動報告発表
 - ①「第1回フォトロゲ関内地区～初めてでもわかる歴史的建造物」
神奈川県建築士会（発表者 永田）
 - ②「未来へつなぐ建築の種蒔き運動～今、私達にできることから～」
長野県建築士会上伊那支部（発表者 安藤）
- ・第二部 トークセッション
- ・投票（5分間 1票/人 オンライン投票）
- ・全体講評、結果発表
- ・連合会山本副会長あいさつ
- ・閉会

各代表の活動に共通する点はコロナ禍の中でどのようにして活動を行うかというところにあった。どちらの県も活動が盛り上がっている状況でコロナ禍に遭い、神奈川県では「この時期やめるのは簡単で、やるためににはなにをすべきか」と考え、また、長野県では反対意見にも耳を傾けつつ協力を仰いだという。

神奈川県は「フォトロゲ」という時間内でチェックポイントを回り、写真を撮って得点を集めるスポーツを関内地区で開催し、チェックポイントに歴史的建造物を選定することで関内地区の魅力を知ってもらう活動を行っている。発表は友達に語りかけるような、とてもユーモラスかつハイテンションな表現で、2年という長期間にわたる活動やコロナ禍の苦労を感じさせないものだった。この活動がきっかけで会員が1名増えるなど、建築士会の周知にもなっている。

長野県は2015年から一般の人にも建築士を知ってもらうため、地元の小学校に建築の授業を行っている。各学校から声がかかるようになり、2018年には南箕輪小学校からピザ窯のための小屋の製作を依頼された。1年間に12回の授業を通して、伐採や製材はじめ作業を実際に子供たちに体験してもらいながら、子供たちと共に小屋を完成させている。2020年には箕輪中部小学校でコロナ対策や制限を設けながら、子供たちに作業を1日体験してもらい、羊小屋を完成している。資金面では補助金や行政の

支援を受けるなどの協力を得て、地域に根付きはじめた活動になっている。この活動を広く一般に周知するために、新聞やケーブルテレビをうまく活用している。

WEB 参加者は 70 名でトークセッションではチャットによる質問がなされ、投票はオンラインで行われた。

「最優秀賞」は長野県、「優秀賞」は神奈川県、「奨励賞」は北海道、福島、東京、山梨、愛知、富山、京都、奈良、兵庫、大分、「連合会青年委員会賞」は高校生に向けて建築の授業を行っている東京、「特別賞」はアフターコロナの建築士会の活動の在り方を発表した愛知となった。

WEB 開催ではあったが大きな問題もなく時間内に閉会を迎えた。対面による交流によって親睦を深めるということができなかったのが残念という委員の意見もあったが、プレゼンを行った 2 名は、WEB だからこそできる表現方法を模索するなど、柔軟に対応している様子が印象に残った。WEB では発表者の言いまちがいや声の含みを、場の雰囲気や発表者のしぐさによる視聴者側のフォローがしづらい分、録画が自然に感じられ聞きとりやすかった気がする。

広島での現地開催から東京での WEB 開催への変更後、短期間で準備した大会関係者や発表者の入念な準備が伺えるセッションだったと思う。

第 63 回 建築士会全国大会 広島大会青年委員会担当セッション「地域実践活動発表会」開催報告			
行事名称	第 63 回 建築士会全国大会 広島大会 青年委員会担当セッション「地域実践活動 発表会」	会 場	配信場所「浜松町コンベンションホール会 議室 3」東京都港区 オンライン開催 (Zoom ウェビナ - 配信)
開催日時	令 和 3 年 11 月 20 日 (土) 10:00 ~ 11:30	報告者	連合会青年委員 規工川 和史
開催趣旨	<p>全国 47 都道府県の青年委員会では、他の県や他ブロックにうまく周知ができるいいという現状があります。他の県の活動を深く知り、情報を共有することで、各々が今後の活動の幅を広げ、建築士会全体の活性化をはかりたいというのが、毎年開催されてきた青年セッションの趣旨です。</p> <p>しかし、昨年はコロナ禍によって活発な活動ができていない地域も出ています。そんな中、その状況で工夫を凝らし活動している地域もあります。そのような状況を考慮し、これまでのブロックでの選出に限定せず、各都道府県が立候補によって発表できる機会を作りました。それこそ、『他の都道府県の活動を知り、自身の活動の幅を広げ、建築士会全体の活性化を図る』につながります。</p> <p>各地の活動を深く知ることで、今後の自県での活動につなげやすくし、またオンライン開催とすることで、安心して参加できる環境を作り、多くの都道府県の会員と意見交換をすることにより、交流をしやすい状況を作り、今後の活動の発展につなげたいと考えています。</p>	内 容	<p>第一部 「地域実践活動発表」 第一発表者：永田 朋大（神奈川県） 第二発表者：安藤 美果（長野県）</p> <p>第二部 「発表者によるトークセッション」 登壇者：永田 朋大（神奈川県） ：安藤 美果（長野県） モレーティー：山本 道善 (連合会青年副委員長) ：規工川 和史 (連合会青年委員)</p>
		結 果	<p>最優秀賞：公益社団法人長野県建築士会 優秀賞：一般社団法人神奈川県建築士会 連合青年委員会賞：一般社団法人東京建築士会 特別賞：公益社団法人愛知建築士会 奨励賞：一般社団法人北海道建築士会、公益社団法人福島県建築士会、一般社団法人山梨県建築士会、一般社団法人東京建築士会、公益社団法人愛知建築士会、公益社団法人富山県建築士会、一般社団法人京都府建築士会、一般社団法人奈良県建築士会、公益社団法人兵庫県建築士会、公益社団法人大分県建築士会（順不同）</p>

◇趣旨に対する成果

コロナ禍の状況を鑑み、今回は初の試みが多く取り入れた開催となりました。まず、趣旨にもある通り、従来のブロック代表制だけでなく立候補制を取り入れました。そして、Facebook と YouTube を活用した事前オンラインでの予選会を行い、上位 2 県が全国大会にて発表する形式を取りました。本来であれば、本大会は現地での対面開催ができればと考えていましたが、コロナ禍の影響により本大会での発表もオンライン開催となり、全てが初のこころみでありました。

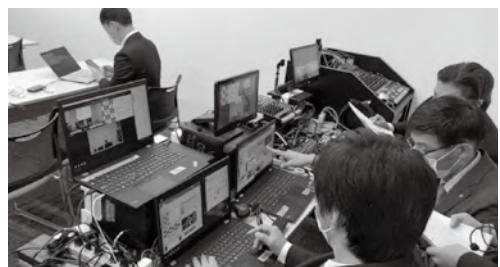
大会では、事前予選会でも好評であった、動画による発表を行い、オンラインの伝わりにくいというデメリットを軽減することができました。また、従来よりもセッション時間が大幅に短くなつた為、事前予選を行い、本大会での発表者数を最小限にすることで、短いながらも、本大会での発表者の活動をトークセッションにより深く学ぶことができました。会議後のアンケートを見ても、ほとんどの視聴者の方から、高評価をいただき新たな青年セッションのあり方を考えるきっかけとなるセッションとなりました。

◇課題・検討事項

- ・直前での会場、開催方法の変更により準備が不十分な点が多くあつた。
- ・参加者側の機器トラブルを取り除く必要がある。
- ・広報にあまり時間が掛けれず、参加者数が伸びなかつた。
- ・投票時間やオンライン投票については、事前の説明がもつと必要であると感じた。

参加者数：山本副会長、単会青年委員等 84 名、連合会青年委員等 12 名
合計 97 名

開催状況



女性委員会

令和3年度 第30回全国女性建築士連絡協議会 分科会3-2

「高齢社会とまちづくり／私のまち 起承転…」

(一社) 秋田県建築士会 松 橋 雅 子

はじめに

ここ数年「社会保障の2040年問題」と耳にするようになりました。ところで2040年とはどんな年なのか？調べてみたところ、日本の人団が約1億1000万人になり、1.5人の現役世代（生産年齢人口）が1人の高齢世代を支える時代に突入する年であり、高齢化・困窮化・孤立化で苦しむ高齢世代を、減少する現役世代がどうやって支え対処していくべきか、国の社会保障の面では議論が始まっています。

一方、私の住む小さなまちでは2040年を待たずして既にこの危機的状況を迎えており、同じ問題を抱えている市町村は少なくはないはずです。

大都市では気づきにくい高齢者の問題も、地方の現状を知ることで、私たちの住まいや暮らしに直結する重要な問題として捉え、どう解決するか考えるきっかけとして、嘗て秋田県旧鷹巣町で取り組んだ「住民参加の福祉のまちづくり」について振り返ります。



1992年頃合併前の鷹巣町

2005年4月、合川町・森吉町・阿仁町の3町と合併し、北秋田市として生まれ変わった。

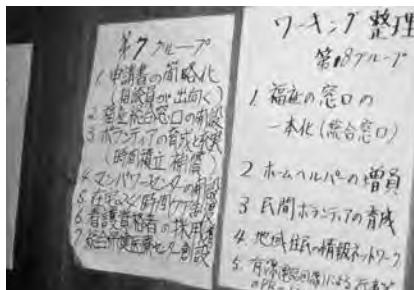
「起」：そもそも、なぜ人口約2万人の小さな町が「福祉のまちづくり」を始めたのか？

秋田県旧鷹巣町は古くから農林業を主産業とし、県の出先機関を置き北秋田の交通と商業の交差点的な役割を果たしていました。しかし、時代の流れと共に高速交通体系が進み商業圏は他市町村に移り、主産業の農林業も年々減少し若者の就職も都会へ求め町を離れるようになり、人口は減少の一途をたどっていました。（人口約23,000人、高齢化率17%（1992年））

この問題をいち早く解決しようと、その年誕生した新首長が福祉政策を最優先に掲げ、自ら町の実態を知り、先進地視察（北欧デンマーク）で学び「どんな社会もはじめからあるものではなく、ともに創りだすもの。」と住民に呼びかけ、1992年「福祉のまちづくりワーキンググループ」が発足しました。（以下WGと表記）この呼びかけに集まったWGメンバーの住民たちは、肩書を持たない地域の高齢者（平均年齢65才）たちで、現役世代のメンバーは私と青年会会長の二人だけでしたが、メンバーは「住み慣れた地域で自宅で暮らし続けたい」との思いから、自分たちの知らない町の現状を改めて学ぶことか



ワーキンググループ全体会風景



聞き取り課題の整理



個々の聞き取り調査風景

ら始めたのです。

最初のWGの活動は、地域で暮らす高齢者の暮らしの実態を把握、様々な課題を掘り起こし3つに分類することから始めました。

1. すぐできること
2. 工夫すればできること
3. 予算化しなければできないこと

この中で「すぐできること」はWGメンバーが自ら問題解決に向けて議論し実践します。

例えば在宅介護の家族から「宅老所があれば…」の悩みに応え、自治会館を借りて元栄養士を中心となり地域で出前ミニデイサービスを実践した。また「医師には聞きにくいけど看護師には相談にのってもらいたい…」との声に、町が商店街に開設した訪問看護ステーションで、元看護師たちのWGが留守番をしながら、住民の相談役として頼りにされてきました。(平均年齢70才代のナースたち)

また当時の私は「在宅ケア」についての意識も知識も無かったので高齢者のみなさんから悩み事を聞きながら、私自身もケガで自宅で不便な生活をした経験があったことも重なり、他人事で済ますことはできませんでした。何より、家族に迷惑をかけたくないからと、施設入所を選択する人が多いことも知りました。建築士としてみんなが安心して住み慣れた自宅で暮らし続けることを可能にするために、まずは「住環境整備」が大事であると、私一人でWG活動をスタート、その後活動報告をするたびにメンバーが増え、大工や福祉用具販売営業マン、理学療法士など多種多様のメンバーが増え、実際の住宅改修の現場にて助言・工事を行いました。更には町の建設技能組合青年部と秋田大学医学部OT/PTの協力で「手すり取り付け隊」の取組も行い、医療・福祉関係者と連携し住宅改修を行うことが当事者にとっても、それぞれの専門職にとっても有効な手段であることを実感、現在も活動中です。

このように、はじめは福祉についての知識がゼロだった住民も、活動を通じて互いに教え学ぶことで、介護で悩む人たちから相談を受けることが増えていきました。ある時、メンバーの男性が「今は誰かのためだけど、いつか自分のために必要なものになるはず」とつぶやき納得。あれから28年メンバーは90歳を過ぎ、今では自分たちの作ったサービスや施設を利用する側になりましたが、みんな元気に自宅で過ごしています。

「承」：住民の意識が変われば、町は変わる！

このようにWG活動によって明確になった地域の課題を受け



訪問看護ステーションスタート



福祉用具の利活用 WG



住宅改修 WG



小学校区にできたサテライトステーション

て、行政は予算化しなければできないことについて具体的な政策を打ち出しました。2000年に介護保険制度が導入される以前の約8年間は、旧鷹巣町がシステムとして在宅ケアサービスを充実し住民の暮らしを支えました。

2000年の介護保険制度スタートまでにWGの提案によって介護保険制度のスタート前にほとんどのメニューがラインアップできていたことは評価できることだと思います。

この他、国交省「歩いて暮らせるまちづくり」等商店街のバリアフリー化に向けた調査や、高齢者ディマンドバスの利用調査等、年間を通して様々な事業への協力もWGとして関わってきた。ある時は大学生・小中高生と一緒に調査協力や、携帯電話の使い方を教えてもらうことから始めた予約受付センター担当など、高齢者の皆さんにとっては何から何まで初めてのことばかりだったと思います。それでも、彼らは新しいことをまるで楽しむかのように、大学生たちと語り合い、電動車いすに練習しながらも興味津々で乗り回す姿は、まるで少年のように楽しそうで、私たちに「老いる」ことは決して不安ばかりではないと叫んでいるかのようでした。

そして、私たちの町で最も大きな成果のひとつは、WGで住み慣れたまちに高齢者施設が必要であると提言し、調査から実現まで糸余曲折の末1999年4月老人保健施設「ケアタウンたかのす(全室個室型)」が開設したことです。この施設は、それまで多床室型だった日本の高齢者施設を、ユニットケア型全室個室の施設に変えるきっかけ(故外山義東北工業大学教授)となり、工事の途中にモデルルームを公開し市民が見学して要望を出し合い作り上げた初めての施設です。

私たちの町は観光都市ではなかったが「福祉のまちづくり」WG活動を始めてから、多くの視察が訪れるようになり、「ケアタウンたかのす」完成後は全国の福祉モデルとして県内外から建築関係や行政関係者の視察者も急増し、町は活気にあふれました。

「転」：どんなに重要な活動も社会情勢に合わせてギアチェンジが必要

私たちはこの活動が長く続くと思っていましたが、「福祉のまちづくり」WGの取り組みが12年目を迎えたころ、全国で平成の大合併に向けた動きが始まっており、近隣の町ではすでに財政難から合併に向けた住民への情報発信が広がっていたのです。私たちは自分たちの興味のあることに一生懸命過ぎて、社会情勢それも地方の情勢についてもっと執着して調べる必要があったと思うし、これほど大事な情報に対してあまりにも鈍感だったことが悔やまれます。



歩いて暮らせるまちづくり調査
高齢者とこどもたち



歩いて暮らせるまちづくり調査
WGメンバーと大学生



モデルルーム一般公開
ケアタウン探検隊



ケアタウンたかのす 完成



商店街を元気にしたい
高校生主催のイベント

2003年、これまで福祉政策に力を注いだ首長は合併に消極的だったことが起因したのか統一地方選挙で敗れ、合併推進派の新首長が誕生し福祉政策については継承せず新たなまちづくりをスタートさせました。この状況から私たちは今後の活動の在り方について議論し悩みぬいた結果、WGメンバーも高齢となりこのままでは継続困難であることと「やるだけやった」という達成感を持って凍結しました。

「…」：立ち止ることにより、これまでの軌跡を振り返り軌道修正を

結局2005年4月、旧鷹巣と近隣3町（合川町、森吉町、阿仁町）は対等合併（人口42,050人）をしました。あれほどまでに住民を巻き込む形で合併議論がヒートアップしたもの、いざ合併が決まつたらあまりにも呆気なく当初は実感が湧きませんでしたが、合併した他町より仕事の依頼が入るようになったことや、旧鷹巣時代のWG活動に理解を示し応援してくれる人がいたり、介護保険・在宅ケアサービスを利用することができるようになった人たちからは「自宅で暮し続けられてありがたい」と喜ばれます。

まちづくり活動も一生懸命活動しているときは周りを見る余裕もなく前進することばかりを考えてしまいますが、立ち止まってみると目指す方向や目的に追われ廻りを見回す余裕がなかったことに気づかれます。その余裕のなさが、新しい仲間を増やせなかった要因の一つだったのかもしれません。実際活動して言えることは「まちづくり」活動はグループでなくても一人からできること。そして日々の暮らしの延長線上で「自分ができること」を継続していくことで、その時、時代に必要な「まちづくり」活動につながっていきます…。

終わりに

2040問題が間近に迫つている今、日本全体も大きな転換期であると同時に、地方に住む私たち建築士は自分が生まれ育った町の実態を知る必要があります。人口減少が進む町は元気が感じられず、空き家、空き地が増え、お年寄りばかりが目に付くかもしれない。でも、高齢者の多い町だからこそお年寄りが笑顔でのびのび暮らせることで、町は明るく元気になるはずです。

WG活動の中で「建築士の私」というよりも沢山の仲間たちと活動できたことが、建築士としてもっと一人ひとりの暮らしを観ることを大事にすべきということを教えられました。

最後に、私たち建築士はこれまで「まちづくり」を先進地に学んできましたが、今一度継続できなかつた事例を紐解いてみてください。高齢社会は決して特別な社会なのではなく、これから私たちが生きていく社会の姿として捉え、夫々何ができるのか？。

きっとそこに「ヒント」が隠されているはずです。



わんぱあく！皆で書いた太陽の前で
次世代のかわいい笑顔に、バトンタッチ!!

第 63 回建築士会全国大会「広島大会」 女性委員会セッション「和の空間の魅力を探る…みたび」の報告

今年度は女性委員会が 3 年間に渡る事業の集大成としてのセッションで、東北ブロックから秋田県建築士会女性委員会より前委員長の戸嶋真紀子さんがパネリストとして登壇しました。

そもそも「魅力ある和の空間ガイドブック」Web 版作成に取り組んだ理由は、近年ライフスタイルが多様化し、地域環境に適した伝統的な住まいに暮らす人々が減り続け、日本の住まいから和室や縁側といった和の空間が無くなりつつあることに危機感を持ち、全国各地で公開されている和の空間の中から、魅力的なもの、これから居住環境への示唆に富んでいるものを選んで紹介しようと、平成 30 年 9 月に連合会女性委員会のホームページ上に公開、令和 2.3 年度は更に事例を追加し最終版への改定を進めています。

活動報告では、トップで戸嶋さんが「北前船交易の歴史を残す三軒の地主屋敷」旧北島家と旧荒川家 2 棟を紹介。角間川御三家地主屋敷の江戸時代、秋田と大阪を結ぶ江戸時代の歴史物語に始まり、屋敷の造りや部材等建築様式のほか、当時の暮らしぶりや地域性も含め小気味い説明でした。

このほか神奈川県建築士会から「晩翠楼 福住」、「雨岳 山口家住宅」の 2 棟で、どちらも近隣にある複数の歴史的建造物を組み合わせたランチ付き日帰りツアーも企画され、他県建築士会会員との交流も行われている様子でした。

兵庫県建築士会から、阪神間モダニズム（和洋折衷）の建物紹介。「倚松庵」、「ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）」と、どちらも耐震改修工事が行われており、特に「ヨドコウ迎賓館」は、フランクロイド・ライトの設計で、私も一度震災前に個人的に見学をしたが、もう一度行ってみたい建物として記憶に残る建築物です。

愛媛県建築士会から、「常信寺庫裏」、「木屋旅館」の 2 棟。このうちの「木屋旅館」は、一旦廃業するも、宇和島市が購入し平成 24 年に再生オープンしました。外観は創建当時の姿を残し、内部は 2 階の床板を外しライティングの光も下に届く仕掛けとするなど、現在も宿泊可能な旅館として公開されています。

後半にはパネルディスカッションが行われ、ガイドブックの今後の利活用方法や課題などが話し合われ多くの意見が出ましたが、歴史的な和の空間とお料理やスイーツなど、様々な視点でコラボレーションするアイディアも出され、人々をその地に足を運ばせるキーワードになると思いました。

最後に今年の全国大会あきた大会「秋田へけ～」と、戸嶋さんと東北ブロック委員の鈴木深雪さん（福島県建築士会）も一緒に PR してくれました。

東北 ONE チームで頑張りましょう !!



女性委員会セッションの様子

『魅力ある和の空間ガイドブック』

2020 年 4 月 WEB 改訂版

<https://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/guidebook.html>



角間川 旧北島家住宅

かくまがわ きゅう きたじまけ じゅうたく

秋田県大仙市



角間川は秋田県内陸南部、雄物川と横手川の合流点に位置する。江戸時代、角間川港に集められた米穀は北前船によって日本海沿岸から上方まで運ばれた。角間川は舟運の要所となり大いに繁栄した。その中で商業的な地主が成立し、明治期には県内を代表する地主町となつた。平成まで住まいとして使われた建物が今は地域住民により守り活用されている。

見どころ



【内蔵】大正5年竣工。国重要文化財（旧国宝）の當麻曼荼羅図の保管を目的に当時の文部省の指導を受けて建築されたと伝わる。火災対策として様々な工夫がなされている。



鉄製の窓扉は、火災時には熱により金具が外れ扉についた戸車が斜めのレールを下り自動的に扉が閉まる仕組みになっている。



内部は座敷蔵で、婚礼に使われたとか。1階にあらわしになっている2階の床板には鉛色の漆が塗られている。



なまこ壁のひし形の内側は一枚一枚の陶板が張られている。焼きむらのある陶板がなまこ壁の美しさを際立たせている。

【外蔵】明治30年竣工。1階の床にはレンガが敷かれている。レンガ敷きの一部が半地下の貯蔵庫になっており冬季の花や野菜の保管庫として使われていた。

北島家は、江戸時代に越後から移り住んだと伝わっている。定住後、油屋、酒造業、米を扱う商人となる。7代目北島虎之助は明治22年初代角間川町長、群会議員、県議会議員を務めている。9代北島震一氏は秋田市立美術館の初代館長を務め、その弟北島精六氏は洋画家として活躍、美術に造詣が深い家柄である。外蔵のなまこ壁、主屋の襖紙、洋室に見られる意匠は個性的でハイカラ。北前船の交易による上方文化の影響が三軒のうちで最も多く見られる邸宅である。



【主屋北座敷】

明治14年明治天皇御巡幸の際に建てられた和室。北白川宮が宿泊した建物で数寄屋風の意匠が見られる。豪雪地帯のこの地で構造体が華奢な数寄屋造りは雪下ろしの風習と地域住民の協力により維持してきた。



長岡安平設計の庭を縁側越しに楽しむことが出来る。



【襖紙】

8帖二間・4帖間・縁側からなる北座敷にはそれぞれに凝った意匠の襖紙が使われている。



【主屋北座敷仏間】

座敷隣りの4帖間にある、座敷で庭を楽しむ地窓。

建物名称	旧北島家住宅
建築年	主屋：1833年(天保4年)・1881年(明治14年)・1905年(明治38年)
構造・様式	内蔵：1916年(大正5年)、外蔵：1897年(明治30年)
所在地	主屋：木造平屋一部二階建、内蔵・外蔵：土蔵造二階建 秋田県大仙市角間川町字西中上町17番地
電話	080-9635-8211
H P	—
開館時間	ガイドの事前申し込みにより見学可 9:00～16:00
アクセス	秋田道大曲ICより車で10分 大曲バスターミナルより角間川線 角間川中上町下車、徒歩1分
備考	

令和3年度「環境大賞」(秋田県)受賞

秋田県では、県民運動推進の一環として、環境保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を表彰し、その活動事例を広く県民に紹介することにより、県民の環境保全に関する自主的な取組を推進することを目的に、平成10年度に環境大賞表彰制度が創設されました。環境保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を「環境大賞」として表彰し、その活動事例を県民に紹介しています。

今年度は、3部門（個人、学校教育関係、団体）に応募があり、選考委員会での審査の結果、当会会員の石木田まり子さん（鹿角建築士会）が受賞されました。

石木田さんの活動を紹介します。

【活動の名称】

環境保全活動、やれることからコツコツと

【活動概要】

鹿角市消費者の会代表として、市民を対象に省エネルギーや循環型社会推進に関する情報発信や、施設見学、勉強会を実施しています。また、地域のコミュニティ放送局で、環境をテーマにした番組のパーソナリティを務め普及啓発活動をしています。個人としても地域のクリーンアップや植樹活動等に継続的に取り組んでいます。



R3.11.18 秋田魁新報

県環境大賞を受賞

石木田まり子さん

=鹿角市

廻廊となる環境保全に関する実践活動を表彰する、県の環境大賞を石木田まり子さん(70)が個人部門で受賞した。鹿角市消費者の会の会長として、省エネルギーや循環型社会推進に関する情報発信なども続けていたる。環境保全活動に取り組む姿勢やかける思いを聞いた。

一環境大賞受賞はどう受けとめていますか。

「米代川流域のクリーンアップや緑の再生を目指した旗樹祭への参加などを個人でコツコツと続けてきました。地道で目立たない活動でしたが、県の目にとまり取り上げていただけたことがうれしく、ありがとうございました」。

一会長を務める鹿角市消費者の会の活動内容と目的を教えてください。

「買い物消費者になることを目的に活動しています。会員同士で水道代や光熱費などを見える化する頃は貢献率伸ばしに取り組みました。家計簿を付けると、無駄の生生活の中にある無駄が數字となって表れます。電化製品は主電源から離すなど、できるところから節約を行えば、財布にも環境にも優しい生活をすることができます。自分たちが実践してみてよかることを会員以外に勧める活動にも力を入れています」。

一環境保全活動に取り組むきっかけは何ですか。

「消費者活動の中で、米代川下流域の人たちから、「上流から汚れた水が流れている。水の使い方に気が配ってほしい」と指摘をもらったのがきっかけです。川の上の鹿角市に住む自分たちがどういう暮らしをしているかが振り返ると、『んから油や米のどさぎをそのまま下水に捨てていたりしました。これではいけないと思い、牛乳パックに貼めた新聞紙にしまし込みて燃えるゴミとして捨てたり、とけ汁をバケツにたためて庭にまいたりするなど直接川に捨てないよう工夫しました』。

一気軽にできる環境保全活動はありますか。

「ペットボトルの再使用が手軽だと

再 使用 で 環 境 保 全

思います。軽いしちら遊びも參りますし、中をきれいに洗えれば何回も使えます。複数回使用するという意味ではレジ袋なども同じですね。捨てる物をいかにして最後まで使うかという視点で見ると、多くを生活に取り入れることができます」。

一再使用の考え方の原点はどんなところにあるでしょうか。

「私が育った昭和30年代は物豊富でなかった時代です。欲求を経験した祖父や母親は、手元にある物は何か別の役に立つのではと考える傾向が強く知識も豊富でした。私の子ども時代は余裕などは持たれず、にぎりぎしを竹の皮にくるんで海水浴に行ったのを覚えてています。今思えば、昔の人々は竹の皮に余裕作付があるか知らずして使っていたのでしょうか」。

一環境保全を強く感じる人もいると思います。そうした人たちに向けて一言お願いします。

「環境保全を強く感じる人を増やすには、言葉を廻らすだけです。少しのところを活心地をよくしょとと取り組むのが環境保全なんだと想います」。

R3.11.26 北鹿新聞

「旧料亭 金勇」清掃ボランティア活動

能代山本建築士会 加 藤 一 喜

「旧料亭 金勇」は明治 23 年（1890 年）に創業しています。現在の建物は昭和 12 年（1937 年）に建て替えられた物で、県内屈指の老舗料亭として親しまれてきました。当時東洋一の木都と呼ばれた能代市の文化や木材加工技術の繁栄を伝える貴重な歴史的建造物として平成 10 年（1998 年）に国登録有形文化財に登録されております。その後、平成 24 年（2012 年）1 月から改修工事が行われ平成 25 年（2013 年）10 月にリニューアルオープンし現在に至ります。今では囲碁の本因坊戦というビッグタイトル戦の会場としても利用されているようです。

この清掃ボランティア活動は能代山本建築士会の青年委員が主催で 2016 年から行われている毎年恒例の活動で、今回で 6 回目となりました。私達もこの活動により歴史的建造物の維持に貢献でき管理されている皆様からも喜んでいただける良い活動だと思っております。当時の改修に携わった会員もあり、今後も継続しこの歴史的建造物を大事に残していくべきだと思います。



(令和3年8月～令和3年12月)

8月4日(水) 連合会第12回女性委員会 (WEB会議)
～、淡路会長出席

8月8日(日) 連合会第1回青年委員会 WEB併用
工藤連合会青年委員対面出席 於：
山口県

8月18日(水) 秋田県建築士会事務局研修会《書面開
催》

8月19日(木) 連合会第7回総務・企画委員会 WE
B 小原連合会総務委員出席

8月24日(火) あきた大会第3回会場利用等基本事項
企画検討会 於：にぎわい交流館AU
令和3年二級建築士学科試験合格発表
合格者42名

9月7日(火) 令和3年一級建築士学科試験合格発表
合格者15名

9月9日(水) 連合会第1回業務保険委員会 WEB
淡路会長、担当理事として出席

9月12日(日) 令和3年二級建築士設計製図試験実施
受験者数81名 於：秋田JAビル

9月15日(水) 第16回木の建築賞1次審査 WEB
局長、次長出席

9月17日(金) 連合会第13回女性委員会 WEB 淡
路会長、担当理事として出席
連合会第8回総務・企画委員会 WE
B 小原連合会総務委員出席

9月22日(水) 連合会臨時正副会長会議 WEB 淡
路会長、連合会副会長として出席

9月24日(金) 連合会臨時理事会 WEB 淡路会長
出席

9月25日(土) 第30回全国女性建築士連絡協議会福岡
大会 WEB 淡路会長、松橋委員長
他出席

9月27日(月) 令和3年度第3回理事会
於：イヤタカ

10月10日(日) 令和3年一級建築士設計製図試験実施
受験者数36名 於：秋田JAビル

10月12日(火) 連合会第1回役員候補者選考委員会
WEB 淡路会長出席

10月16日(土) 東北ブロック女性委員長会議 WEB
松橋委員長出席

10月19日(火) 連合会第14回女性委員会 WEB 淡
路会長、担当理事として出席
一級・二級・木造建築士定期講習会
受講者56名 於：北秋田市交流セン
ター

連合会正副会長会議 淡路会長、連合
会副会長として出席 於：東京都

10月20日(水) 連合会業務保険委員会 淡路会長、連
合会担当理事として出席 於：東京都

10月29日(金) 第16回木の建築賞2次審査 WEB+
あきた会場 於：遊学舎

10月30日(土) 令和3年度青年委員長会議 WEB会
議 工藤連合会青年委員出席

11月3日(水) 東北ブロック会第1回まちづくり委員
会 WEB併用 小原委員長、鈴石理
事現地出席 於：イヤタカ

11月8日(月) 秋田県木材コンクール審査委員会 淡
路会長出席 於：JAビル

11月11日(木) 国際教養大学 モンテ・カセム学長訪
問 淡路会長、田仲副会長、小原理事
出席

11月12日(金) 穂積秋田市長フォーラム 淡路会長出
席 於：キャッスルホテル

11月15日(月) (公社)日本建築士会連合会建築士登録
意見交換会 局長出席 於：仙台市

11月16日(火) 連合会第2回青年委員会 WEB併用
工藤連合会委員対面出席
於：東京都

11月19日(金) 連合会第50回定例理事会 淡路会長出
席 於：東京都

第63回建築士会全国大会広島大会 淡
路会長他11名参加 於：東京都

11月20日(土) 一級・二級・木造建築士定期講習会
受講者75名 於：大仙市大曲交流センター

11月25日(木) 令和3年度青年委員長会議 WEB会
議 工藤連合会青年委員出席
連合会第15回女性委員会 WEB 淡
路会長、担当理事として出席

11月29日(月) 令和3年度上期監査

11月30日(火) 令和3年二級建築士設計製図試験合格
発表 合格者41名

12月2日(木) 一級・二級・木造建築士定期講習会（動
画方式）受講者11名 於：秋田市文
化会館

12月8日(水) あきた大会第16回会場行事委員会 草
薙委員長他19名出席 於：にぎわい交
流館AU

12月11日(土) 東北ブロック第1回会長会議 淡路
会長、局長、次長出席 於：キャッス
ルホテル

12月13日(月) 令和3年度第4回理事会
於：イヤタカ

12月17日(金) 令和3年度青年委員長会議 WEB会
議 工藤連合会青年委員出席

12月20日(月) 連合会第16回女性委員会 WEB 淡
路会長、担当理事として出席

12月23日(木) 令和3年一級建築士設計製図試験合格
発表 合格者6名

令和3年8月～令和3年12月

地域会だより

○鹿角建築士会

令和3年

9月25日 事業 あきた大会PR動画撮影

参加者：5名

(撮影場所：関善賑わい屋敷他)



○大館・北秋田建築士会

令和3年

8月23日 「大館市旧市庁舎」調査

(青年部・歴研会)

・9月より解体される旧市庁舎の螺旋
階段部分の調査 於 旧大館市庁舎
参加 8人

9月18日 歴史的建造物調査

(青年部・歴研会)

・比内町扇田乳安商事本店の調査
於 乳安商事本店
参加 8人

9月25日 神社等の修理に関する調査 (青年部・

歴研会) 於 大館市長木公民館

・泉町 古神明社の調査

参加 9人

10月23日 HMスキルアップ講座 於 桜櫻館

「桜櫻館耐震改修工事完成報告」及び
「増田まちなみ研究会の事業」

・桜櫻館耐震改修工事完成報告

報告者 安達真由美、田村博子

・桜櫻館見学

・増田まちなみ研究会による活動報告

報告者 高荒宏一、黒田 稔、奥 圭司

・質問・意見交換会

参加 大館地区 7人 横手地区 14人

大館市職員 3人



11月5日 第4回大館歴史的建造物研究会
於 大館市中央公民館
・地域別歴史的建造物調査報告
A班・C班の報告 出席 9人

11月10日 「旧市庁舎解体現場」調査（青年部・歴研会） 於 大館市旧市庁舎
・旧市庁舎螺旋階段解体中の詳細調査
参加 5人

11月25日 第5回大館歴史的建造物研究会
於 大館市中央公民館
・地域別歴史的建造物調査報告
B班・D班の報告
・各調査の中間報告
出席 8人

2. 記念講演の経過について
3. 各種アトラクションの内容について
4. その他



○能代山本建築士会

令和3年

9月15日 有志親睦会 秋の有志ゴルフコンペ
大平山カントリークラブ
～8名参加

11月29日 地域貢献活動 青年部主催
旧料亭「金勇」清掃
～6名参加

12月7日 令和3年度第2回役員会
シャトー赤坂に於いて
理事会及び懇親会
～10名参加

○秋田中央建築士会

令和3年

8月24日 第3回会場利用等基本事項企画検討会
(於 にぎわい交流館AU)
1. 会場利用基本計画の策定
2. エクスカーション、記念講演の進め方について
3. 「木の建築賞」の対応について
4. その他

9月25日 あきた大会周知パフォーマンス動画撮影会～巨大なまはげをバックに～
(於 男鹿総合観光案内所)

11月11日 第4回会場利用等基本事項企画検討会
(於 センタース)
1. 中央建築士会の協議

○由利建築士会

令和3年

9月19日 事業 あきた大会PR動画撮影
参加者：4名
(撮影場所：由利町、鳥海町)

○仙北建築士会

令和3年

9月4日 空き家無料リモート相談会 仙北地域振興局建築課主催
(於 仙北地域振興局) 小田島会長参加

11月17日 理事会 令和3年度 第3回常任理事会、第2回理事会 12名出席
(於 大曲交流センター)
1. 講習会及び新年会について
2. ペアーレ住宅講座について
3. 第64回建築士会全国大会あきた大会について
4. 空き家相談会の報告
5. あきた建築士ニュース新年号広告について
6. 会費納入状況について
7. その他

11月25日 建築士定期講習会 監督員補助
(於 大曲交流センター)
齊藤専務理事参加

11月25日 空き家無料相談連絡調整会議
(於 仙北地域振興局)

佐藤副会長参加

○横手建築士会

令和3年

12月15日 第2回理事会 14:00～15:20
(於 サンサン横手)

1.会務報告

(県本部)

- ・令和3年12月17日 第3回理事会
- ・第63回全国大会・広島大会 令和3年11月20日 (土)

11月20日東京浜松町コンベンションホールにて開催

秋田県からの参加者12名、大交流は中止、当日のみで終了

- ・第64回全国大会・秋田大会 令和4年10月14日 (金)

エキスカーションの横手担当コースについての説明及び協力のお願い

2.議題

①新年会について

- ・令和4年1月21日 (金) の開催について

新年会としては開催しない事に決定

②講習会について

- ・令和4年3月2日 (水) の開催について

5月14日の総会とセットで実施、総会前に開催する

③第3回理事会について

- ・令和4年4月13日 (水) で決定

令和4年度第1回理事会は5月25日 (水) に開催

④令和4年年度横手建築士会総会について

- ・日程案：令和4年5月14日 (土) 横手プラザホテル

担当：横手北、金沢

・総会役割分担について

総会委員長、議長、進行役の決定

・令和5年度以降担当

大雄、大森→雄物川、平鹿→十文字、増田

横手担当の班を明確とする

横手北：横手1班 (西1)、2班-1、-2、横手6班、横手 (金沢-1, -2)

⑤その他

- ・CPD登録更新の案内、2月15日～18日に照井郁人建築設計事務所にて集金

- ・県からの建築物雪害防止に関する助言についての依頼文の配布

○湯沢雄勝建築士会

令和3年

9月26日 事 業 秋田大会PR動画撮影

参加者:9名

(撮影場所：小安峡大噴湯入口・稻庭うどん・両関前にて)





受講生ファーストは、確実に実を結んでいます。



顧客満足度
総合満足度 **No.1**

建築士講座



外部評価も
実績も

- カリキュラム充実度
- 設備体制(学習環境)の充実度
- 価格の満足度
- リピート満足度

- 担当者の最適なコース提案力
- 職員の対応サポート力
- 感染対策の満足度
- 使用教材の満足度

日本マーケティングリサーチ機構 調査概要:2021年9月期_顧客満足度調査

1級建築士 合格実績
No.1

日建学院 平成元年～令和2年の合格実績
1級建築士
91,703人
(全国累計162,103人[※])
当学院の1級建築士
合格者占有率 **56.6%**
この32年間に誕生した1級建築士の半数以上が日建学院の受講生です!

※上記全国累計は(公・財)建築技術教育普及センター発表試験結果(1989～2020年)のデータです。

あなたの夢、応援します。

日建学院

資料請求・各種お問い合わせは下記までお気軽にどうぞ!

秋田校 TEL.018-801-7070

〒010-0001 秋田県秋田市中通6-7-9 秋田県畜産会館2F

令和4年
誌上年賀

迎春

2022

新春を迎え平素のご厚情
を深謝し、皆様のご健康
とご多幸をお祈り申し上
げます。



一般社団法人 秋田県建築士会

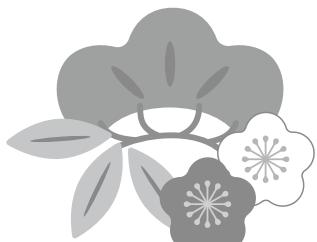
〒010-0001

秋田市中通2-3-8アトリオン5階
(一財)秋田県建築住宅センター内

TEL 018-827-3718

FAX 018-827-3873

会長	淡路	孝	次成	明治	正星	美正	実樹	臣渉	喜子	子一
副会長	川仲	雅	美人	泰博	和泰	一博	誠	藤	子美	一宏
専務理事	井照	郁	誠勇	正湊	正湊	一雅	治志	鈴山	鈴山	道留
常務理事	小田島		志悦	鈴山	鈴山	昭知	高橋	工草	工草	昭知
理事	大高	幸	博一	高橋	石脇		佐藤	加松	加松	
	佐高	隆	徹則	藤島	藤蘿		中西	清水	清水	
	中中	純		西館	蘿藤		戸鳥	斎	斎	
	戸戸	康		館潟	橋		鳥櫻	泉	泉	
	鳥櫻	宏		潟庭	橋川		赤	根	根	
		孝								



謹賀新年

令和4年元旦

大館・北秋田建築士会

住所 〒017-0046 大館市清水一丁目5-4 (有)石川建築内
TEL 0186-59-6665 FAX 0186-42-1943

顧相会	問役長	議員	津谷永光	金沢克己	畠山光由	山清武	加賀谷時代
副会務常理事	長事事	嗣裕成	中寿	田起	石己	山山	谷時代
監事	富宏一	美男一	小笠原寿	浦英人	浦直	浦司樹	北石村大公智晴
	勝昌	正剛	藤留美子	橋雅子	三安	浦直	北石村大公智晴
	奈良	坂信	長谷部徹	田雅敏	浦直	司樹	北石村大公智晴
	熊坂	坂信	安達川義	田雄浩	三安	浦直	北石村大公智晴
	濃屋	濃屋	中赤	高石	浦直	司樹	北石村大公智晴
			平	垣			

謹賀新年

令和4年元旦

いつもそばに 地域と共に … 未来へ



株式会社吉田産業

取締役支店長 松澤清美

■ 大館支店 〒017-0878 大館市川口字上野85-1
TEL 0186-43-2233 FAX 0186-43-2232
■ 能代営業所 〒016-0884 能代市卸町2-7
TEL 0185-54-2602 FAX 0185-54-8458

謹賀新年

令和4年元旦

床材の決定版
床材 環境にやさしい天然素材

床材・壁材・階段材・カウンター (JAS認定工場)

藤島木材工業株式会社

藤島林産株式会社

〒018-3301 北秋田市綴子字田中下モ31
TEL 0186(62)0390~1
FAX 0186(62)0392

謹賀新年

令和4年元旦

建設から
暮らしまで



おかげさまで会社設立139年
建設から暮らしまで



株式会社角弘大館支店

〒017-0044 大館市御成町一丁目16番10号

支店長 柴田 望

TEL 0186-42-3041 FAX 0186-49-0985

URL <http://www.kakuhiro.co.jp/>

謹賀新年

令和4年元旦

人のそばに、夢のそばに。

山二建設資材株式会社
大館営業所

〒017-0838
秋田県大館市山館字八幡下150
TEL 0186(42)7521
FAX 0186(42)7520
URL <http://www.yamani-ks.co.jp/>

謹賀新年

令和4年元旦

秋田中央建築士会

住所 〒010-0001 秋田市中通2-3-8 秋田アトリオンビル5F
TEL 018-836-7850 FAX 018-836-7852

相談役	工湯	藤沢	晴隆	治市	小竹	哲夫	鈴木	玲子	高橋	智徳
会長	孝久	次美	成子	則美	竹	朗人	田木	恒	友藤	寒温
副会長	田仲	雅一	成樹	樹崇	佐館	敦博	岡田	佐谷	口松	美博
会理	路田	久一	則美	重	原	青広	田	若	満州	小佐西
監事	加藤	北	樹崇	英明	田	田山	恒	藤	原藤村	正紘
	藤	北	崇	英明	山	藤	田	口	村	明一聖
	木	能	佐	佐	藤	山	岡	松		
	上	伊	竹	佐	藤	田	田			
	藤	小	烟	佐	玉	山	岡			
	川	竹	佐	藤	田	藤	田			
	木	烟	佐	山	山	木	山			
	上	佐	佐	藤	山	木	山			
	藤	佐	佐	藤	藤	木	木			
	木	佐	佐	佐	木	木	木			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	木	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	上	佐	佐	佐	佐	佐	佐			
	藤	佐	佐	佐	佐					

謹賀新年

令和4年元旦

建築物の中性化・塗装補修から予防保全まで

リフリート工法

調査・検査・診断から施工そして完了まで
—システムマッチに推進—

秋田県リフリート工法施工技術協会

事務所 秋田市外旭川字田中6番地 TEL 018-862-5484

株式会社リフリート工法
リフリート工法

工事施工にあたってはリフリート工法施工管理士を置き、責任ある施工管理のもとで施工致します。

会員名簿

会社名	電話番号
株式会社加賀昭塗装	018-845-1247
株式会社黒澤塗装工業	018-835-1084
栄塗装有限会社	018-847-2901
三建塗装株式会社	018-862-5484
株式会社タカベン	018-823-1373
株式会社ナカゼン	0187-56-2262
有限会社美工舎塗装工業	018-816-0145
平野塗装工業株式会社	018-863-8555
株式会社フジベン	018-866-2235
有限会社藤義塗装	018-834-9064
丸谷塗装工業株式会社	018-823-8581
株式会社三國	018-884-6888
有限会社環境清工業	0183-72-0038
有限会社久保上左官工業	0183-73-4140
関左官工業株式会社	0186-23-4560
株式会社アルシーテック	018-853-1609

謹賀新年

令和4年元旦

(一社)日本塗装工業会会員 (一社)日本橋梁・鋼構造物塗装技術協会会員
外壁改修工法リフリート工業会会員 NETIS 登録番号 KTK-15007-A

三建塗装株式会社

代表取締役 飛鳥 淳

本社 秋田市外旭川字田中6番地
TEL 018 (862) 5484代
FAX 018 (862) 5564
URL : <http://www.sankenpaint.com>

大仙支店 大仙市戸地谷字川前359番地
TEL 0187 (63) 8035
FAX 0187 (63) 8036

謹賀新年

令和4年元旦



総合建設業／一級建築士事務所

株式会社長谷駒組

代表取締役 長谷川 尚造

〒010-0013 秋田市南通築地8-10

TEL. 018(834)5445代 FAX. 018(834)5437

謹賀新年

令和4年元旦

代表取締役 足利 健



総合建設業

株式会社足利工務店

〒019-2601
秋田市河辺和田字岡村239

電話／018-882-2059・ファックス／882-2153

仙台営業所

仙台市宮城野区鶴巣2丁目3-43

TEL. 022-781-6301 FAX. 022-781-6302

謹賀新年

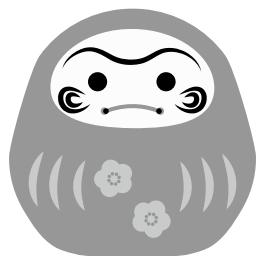
令和4年元旦

技術と信頼で明日を拓く

⑤互大設備工業 株式会社

代表取締役 脇屋憲一

本社 秋田市添川字境内川原228-27
TEL 018-833-9270



謹賀新年

令和4年元旦

電気・電気通信・消防施設・機械器具設置・設計施工

④羽後電設工業株式会社

代表取締役社長 七山慎一

●本社／秋田市八橋イサノ二丁目15-25 TEL(018)4953 FAX(018)0109
●営業所／横手(32)3717・大曲(62)2675・大館(43)0778
男鹿(35)2282・本荘(22)5599・湯沢(72)8611
仙北(43)2018

謹賀新年

令和4年元旦

④金子サッシ

株式会社 KANEKO

代表取締役 田村伸一

TEL 010-1617
秋田市新屋松美ガ丘東町2番15号
TEL (018)863-1717 FAX (018)863-9234

謹賀新年

令和4年元旦

屋根工事・板金工事・ステンレス金物工事施工
ENEOS災害対応型中核給油所

④石井商事株式会社

代表取締役社長 石井広樹

本社・工事部／南秋田郡八郎潟町川崎字屋裏17-4
TEL 018(875)2431・FAX 018(875)4245
ガソリンスタンド／南秋田郡五城目町大川大川字大堤41-1
TEL 018(875)2620

謹賀新年

令和4年元旦

④東部ガス

東部ガス株式会社 秋田支社

取締役支社長 佐藤規博

TEL 010-0029
秋田市橋山川口境1番1号
TEL : 018-832-6595 FAX : 018-832-2116

謹賀新年

令和4年元旦

一般社団法人 秋田県空調衛生工事業協会

会長 阿部 公雄
副会長 川間 政男
副会長 佐藤 裕之
副会長 遠田 博士

秋田市山王臨海町3-18 TEL(018)824-7761

謹賀新年

令和4年元旦



一般社団法人
秋田県設備設計事務所協会

会長 岸和章
副会長 酒田 静雄
専務理事 小林 健太

〒010-0951
秋田市山王 3-1-7 東カンビル 7F
TEL018-863-7156 FAX018-863-7127

謹賀新年

令和4年元旦

一級建築士事務所
有限会社 村田弘建築設計事務所

代表取締役社長 村田 良太

■ 本社

〒010-0971 秋田市八橋三和町18番15号
TEL 018-823-4345(代)
FAX 018-823-4328
<https://www.mrt-arch.co.jp/>

謹賀新年

令和4年元旦

設計・監理 一級建築士事務所
株式会社 クリエイテープライフ



代表取締役 淡路 孝次

〒010-0802 秋田市外旭川字三後田266-2
TEL 018-868-5352 FAX 018-868-5348
E-mail creativelife@iaa.itkeeper.ne.jp

謹賀新年

令和4年元旦

ホームページ

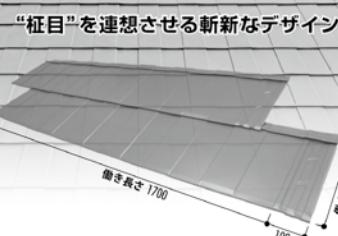
長尺立平葺屋根

S&W工法



定尺横葺屋根

柾目Flex



屋根・壁・太陽光発電... 創エネで未来をリード!
SEKINO セキノ興産

株式会社 セキノ興産 秋田店
☎ 018-880-2323 FAX 018-880-2221
〒011-0916 秋田市飯島字穀丁大谷地 1-7

謹賀新年

令和4年元旦

冷暖房空調衛生設備から
上下水道設備・設計・施工

人のそばに、夢のそばに
山二施設工業株式会社

代表取締役社長 阿部 公雄

本社 / 〒010-0951 秋田市山王五丁目1-7
TEL 018-823-8146(代)
支店 / 桂手 営業所 / 大曲・本荘・能代・潟上・男鹿
<http://www.yamani-s.co.jp>

謹賀新年

令和4年元旦

総合建設業



伊藤工業株式会社

代表取締役社長 伊 藤 満

本社／〒010-1221 秋田県秋田市雄和平沢字舟津田78番地1
☎018 (886) 2135㈹

謹賀新年

令和4年元旦

 HAN ARCHITECT OFFICE
株式会社汎建築設計事務所

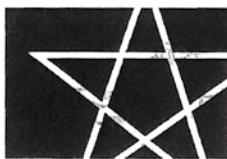
代表取締役 鈴木誠一

〒010-0911 秋田市保戸野すわ町14-23
☎ 018-862-3449 FAX 018-862-3289
E-mail:han_0416@msn.ne.jp
URL: http://www.cna.ne.jp/~han_0416/

謹賀新年

令和4年元旦

ゆたかな人間環境の創造



株式会社

コスモス設計

COSMOS
DESIGN

代表取締役 安田勇二
秋田市川尻町大川反233-49
☎018-824-0048

謹賀新年

令和4年元旦

防水・塗装・塗床・改修工事全般

 中外商工株式会社
Chugai

秋田営業所 秋田市山王中島町2-8
TEL 018-863-2151 FAX 018-862-6994
本店 大阪市西区靱本町1-9-15
TEL 06-6443-7321
http://www.chugai-af.co.jp

謹賀新年

令和4年元旦

金属製建具工事 硝子工事

 株式会社 小島商事

代表取締役 千羽政直

秋田市土崎港西四丁目1-32 TEL018(845)4652㈹

謹賀新年

令和4年元旦

技術と信頼でご奉仕する
左官工事

 有限会社秋田サカングループ

代表取締役 東海林 作次

秋田市桜二丁目27-9 TEL 018(831)0017
FAX 018(835)9697

謹賀新年

令和4年元旦

塗装工事

一般社団法人 日本塗装工業会会員

 有限会社 佐々英塗装

代表取締役 佐々木 徳

〒010-0948 秋田市川尻新川町7-24
TEL (018)823-0996
FAX (018)863-7587

謹賀新年

令和4年元旦

STATIONERY & PAPER
TOMIYA

株式会社 **とみや**
秋田営業所

〒010-0951 秋田市山王3-8-34 (山王ツインビル)
TEL 018-862-8002 FAX 018-865-2490
URL <http://www.kk-tomiya.co.jp>

謹賀新年

令和4年元旦



KAKUHAN
SINCE 1962

木のぬくもり つたえたい
建築資材総合商社 **角繁**
株式会社 **角繁** 悠
代表取締役 渡邊 悠

本社 秋田市中通二丁目1番22号

TEL 018(833)9461 FAX (833)9484

秋田事業センター 秋田市中通二丁目1番22号

TEL 018(863)5151 FAX (863)5156

〈工場・営業拠点〉
秋田市中通二丁目1番22号
仙台支店 山形支店 福島支店 いわき営業所

謹賀新年

令和4年元旦



jutec akita
ジュー テック 秋田 株式会社
代表取締役 渡邊 光

■ 本社

秋田市中通五丁目6-17

TEL 018(835)0035 FAX (832)6130

■ 事業センター

秋田市川尻町字大川反 170-42

TEL 018(862)2662 FAX (862)4629

謹賀新年

令和4年元旦

 株式会社 **浜田建設**
鋪装・自然石アート舗装・土木工事
産業廃棄物・簡易商薬物収集運搬業・再生骨材各種販売

〒010-1654 秋田市浜田字長坂20番地
TEL(018)828-9082 FAX(018)828-4830

謹賀新年

令和4年元旦

 **大友建設** 株式会社
OOTOMO

一級建築士事務所
代表取締役 大友 実

〒010-0061
秋田市鷹町一丁目10-1
TEL 018-823-2848 FAX 018-823-2853
E-mail ootomo@cna.ne.jp

謹賀新年

令和4年元旦

 地域の明日と共に歩む…
株式会社 西村建設

一級建築士事務所

代表取締役
西村 聖
Sei Nishimura

一級建築士・一級建築施工管理技士

〒010-0201 湧上市天王字中分水2-1
Phone.(018)878-4815 Fax.(018)878-2708
E-mail:nishiken@vesta.ocn.ne.jp
<https://www.nishimura-kensetu.com>

謹賀新年

令和4年元旦



新日本法規出版株式会社

〒981-3195 仙台市泉区加茂1丁目48番地の2
TEL (022) 377-1711 FAX (022) 377-9075
E-mail : sendai-eigyo@sn-hoki.co.jp

謹賀新年

令和4年元旦

Kyodo

秋田協同印刷株式会社

代表取締役 赤川 靖宏

〒010-0976
秋田市八橋南二丁目10-34
TEL 018-823-7477 代
FAX 018-824-2864
<https://www.akyodo.co.jp>



謹賀新年

令和4年元旦

由利建築士会

住所 〒015-0011 由利本荘市石脇字尾花沢54-133 (株)工藤設計事務所内
TEL 0184-23-3588 FAX 0184-23-3558

名誉会長	相談役	早工高佐正木阿横	川藤橋藤木原部山	敏次幸孝和忠廣	雄治一美悦悟壽	佐藤誠	佐藤吉則
会長	副会長	会長	会長	会長	会長	村上成	夫聰繁
会事	会事	会事	会事	会事	会事	熊谷藤上	俊一文
						一彦男	菊工
						久博美臣	地藤久博

謹賀新年

令和4年元旦

仙北建築士会

事務局 〒014-0062 大仙市大曲上栄町13-60 (株)長岐建築設計事務所内
TEL 0187-62-4320 FAX 0187-62-0213

会長	副会長	常任理事	会理事	長事事	島藤木藤田谷木木	誠一徳人靖明一昭智有扶子	高橋秀泰	喜正
会事	会事	会事	会事	会事	佐佐々木	佐佐々木	澤原馬	幸達浩
監事	監事	監事	監事	監事	中泉佐々木	中泉佐々木	長藤相	廣朗喜
青年委員長	青年委員長	女性委員長					栗小津林憲康	靖彦
							戸鈴嶋木一	真紀子博
							齋藤喜義	

謹賀新年

令和4年元旦

 株式会社 小田島工務店

一级建築士事務所
代表取締役 小田島 誠


〒019-1234
秋田県仙北郡美郷町飯詰字北中島46番地5
TEL 0187-82-1314
FAX 0187-82-1660
URL <http://www.odasima.co.jp>

謹賀新年

令和4年元旦

ISO9001認証企業

—すべては『ありがとう』のために—
 はりま建設株式会社

代表取締役 播間 泰
常務取締役 茂木 茂樹

【本社】秋田県仙北郡美郷町土崎字中野際89-1
TEL.0187-85-2255
大仙支店 秋田支店 仙台支店
URL <https://harima-kensetsu.jp>

謹賀新年

令和4年元旦

よりよい形をつくり、
街をつくり、社会をつくる

 興栄建設株式会社

代表取締役 斎藤 靖

本社
〒014-0072
秋田県大仙市大曲西根字西道地野502番地2
TEL(0187)68-2288 (㈹)
FAX(0187)68-4488

謹賀新年

令和4年元旦

自然と匠の調和

一般建築・社寺・設計施工・土木工事一式

有限会社 佐々木工務店

代表取締役 佐々木智昭
一級建築設計事務所

【本社】

〒019-2334 秋田県大仙市木本原田字中野153
TEL:0187-77-2708 FAX:0187-77-2710

【大曲OFFICE】

〒014-0062 秋田県大仙市大曲上栄町13-39
TEL:0187-73-5610

謹賀新年

令和4年元旦

信頼と技術で快適な空間を創造する
総合建築業 建築設計・施工

ISO9001:2015取得



株式会社 **さとう**

代表取締役 佐藤 賢一
取締役会長 佐藤 富彦

〒014-1412 秋田県大仙市藤木字東八圭68-5
TEL (0187) 65-3232(代) FAX (0187) 65-3350
URL <http://kksatou.jp/>

謹賀新年

令和4年元旦

より良い品質の提供と環境への影響を
配慮し、次世代への継承を目指す

総合建設業/設計・施工・監理



高吉建設株式会社

代表取締役 佐藤 利昭

本社

〒014-0014 秋田県大仙市大曲福住町6番6号
TEL (0187) 62-4321(代) FAX (0187) 63-0607
URL: <http://www.takakichi.co.jp>

謹賀新年

令和4年元旦

太陽と水と緑

未来へ向かって、安定した環境基盤を創造します。



株式会社 瀧神巧業

代表取締役 佐藤 健

〒014-0372 秋田県仙北市角館町小館54番地
TEL: 0187 (54) 2311 FAX: 0187 (54) 2710
<http://www.takigami.jp> E-mail: info@takigami.jp

営業品目: 建築工事一式・土木工事一式・機械設備工事一式
水門・鉄管・斜槽取水設備・除塵機設備・鋼構造物一般

謹賀新年

令和4年元旦



**建設資材の総合商社
山二建設資材株式会社**

代表取締役社長 田口 清光
所長 大塚 勝也

本社 秋田市御所野湯本三丁目1番5号
TEL 018 (826) 0300
大曲営業所 大仙市下深井字板口端39
TEL 0187 (62) 2631
FAX 0187 (63) 5944

謹賀新年

令和4年元旦

MCA

MORE CREATIVE ASSOCIATES

株式会社 エムシーエー建築設計

代表取締役 小林 康彦

〒014-0068 秋田県大仙市大曲飯田町1-8
TEL 0187-62-5480 FAX 0187-66-1955

謹賀新年

令和4年元旦



美しい人、まち、時代へ
有限会社 館設計

代表取締役 松塚 榮

〒014-0055
秋田県大仙市大曲あけぼの町14-25
TEL 0187-63-4933 FAX 0187-62-4717

謹賀新年

令和4年元旦

設計・監理 一級建築士事務所



**有限会社
都市設計**

代表取締役 泉谷 昭一

〒014-0064
秋田県大仙市小賣高畠字中荒所60番47
TEL: 0187-63-6355 FAX: 0187-63-6395

謹賀新年

令和4年元旦



長岐建築設計事務所

代表取締役 草薙 涉
会長取締役 菅原文雄
専務取締役 齋藤 喜義

〒014-0062
大仙市大曲上栄町13番60号
TEL 0187-62-4320 FAX 0187-62-0213

謹賀新年

令和4年元旦

横手建築士会

住所 〒019-1108 横手市山内土渕字茂竹8-5 照井郁人建築設計事務所内
TEL 0182-53-2650 FAX 0182-53-3450

相談会	役長	理事	大照黒高堀	嶋井田橋川寺村	輝郁弘新運忠宏	男人稔幸一	純治	一信克留	義夫利男	田佐佐佐	友光	明方義
副理			小岩高	荒佐々木	高堀	一悦行	美悦廣誠	留清	忠張	藤橋木	原藤藤藤	
監事			佐々木		高	一孝	章道		佐北齋高鈴	木嶋藤橋木	田佐佐佐	
					高		美裕敏子					
					高		誠智					
					高		ルリ					

謹賀新年

令和4年元旦

有限会社
久米一級建築設計事務所

代表取締役 久米征子

〒013-0035
秋田県横手市平和町6番3号
TEL (0182) 32-1347
FAX (0182) 32-1319
E-mail kume2@sea.plala.or.jp

謹賀新年

令和4年元旦

株式会社 近建築設計事務所

一級建築士事務所

代表取締役 佐藤時彦
〒019-0503
秋田県横手市十文字町西原一番町8番地
TEL (0182) 42-1388(代)
E-mail:konsekkel@h3.dlon.ne.jp

謹賀新年

令和4年元旦



伊藤建設工業株式会社

品質 ISO9001 認証企業
環境 ISO14001

本社 秋田県横手市大町5番19号
TEL 0182(32)3960代
秋田営業所 秋田市山王六丁目1番13号
山王プレスビル3階
TEL 018 (863) 5530

謹賀新年

令和4年元旦


YOKOTE 横手建設株

秋田県横手市前郷二番町7-13
Phone 0182(32)1697代

謹賀新年

令和4年元旦

自然と共に“未来を創造”
品質 ISO9001 認証企業
環境 ISO14001

 創和 SOWA CORPORATION
建設株式会社

本社：〒013-0036 秋田県横手市駅前町13番8号
TEL 0182(32)2680
FAX 0182(32)7500

謹賀新年

令和4年元旦

一級建築士事務所

 有限会社ミツイ設計

代表取締役 金沢純治

〒013-0035 秋田県横手市平和町11-5
TEL 0182-33-1011
FAX 0182-38-8848
E-mail y-mitui@wonder.ocn.ne.jp

謹賀新年

令和4年元旦

有限公司
大嶋建築設計事務所

代表取締役 大嶋輝男

横手市朝日が丘三丁目6-2
TEL 0182-33-1452
FAX 0182-33-2729
E-mail Oshima@ruby.ocm.ne.jp

謹賀新年

令和4年元旦

H 株式会社 半田工務店

本社：〒013-0043
横手市安田字堰端9番地1
TEL0182-33-0300/FAX0182-33-0303
秋田営業所：〒010-0963
秋田市八橋大沼町1番3号
TEL018-863-8635/FAX018-863-8497

謹賀新年

令和4年元旦



信頼・創造
株式会社 大和組

秋田県横手市平和町10番30号
電話 0182-32-3434
FAX 0182-32-3499

謹賀新年

令和4年元旦

湯沢雄勝建築士会

〒012-0037 湯沢市字沖鶴194-12 シグマ企画加納設計内
TEL 0183-73-6797 FAX 0183-73-6837

相談役	佐藤	藤	清	次	山	脇	一	樹	今	康	博	佐藤	重	志	由利	茂	広		
会長副理	佐山	藤	隆	志	高	橋	秀	夫	佐	藤	全	藤	重	靖	利	阿	部	俊	介
会長副理	清水川	脇	成	吉	川	橋	榮	一	佐	藤	子	加藤	静	佳	利	利	利	利	利
会長副理	鈴木	伸	伸	隆	伸	村	榮	一	清水川	道	子	加藤	康	加納	靖	阿	阿	阿	阿
会長副理	加納	大	大	大	大	大	輔	(青年部長)	道	子	(女性部長)	康	加納	静	利	利	利	利	利
監事	藤原	原	大	幸	佐々木	築	瀬	修	修	加藤	康	加藤	加納	佳	利	利	利	利	利
監事	伊藤	伊	一	一	築	瀬	修	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

謹んで新春のお慶びを申し上げます

令和4年元旦



一般財団法人

秋田県建築住宅センター

理事長 高橋 行文 常務理事兼事務局長 植田 一 事務局次長兼課長 伊藤加久子

〒010-0001 秋田市中通二丁目3番8号(アトリオンビル5階)
TEL: 018(836)7851 FAX: 018(836)7852
ホームページ: <http://www.akjc.or.jp>
E-mail: info@akjc.or.jp

謹 賀 新 年

令和4年元旦

秋田地区電気技術協議会

〒011-0911 秋田市飯島字砂田26-9 奥羽電気設備(株)秋田営業所内
TEL: 018-845-9735 FAX: 018-846-8255 E-mail: ohwu-akita@wine.ocn.ne.jp

会長	工藤 一則	奥羽電気設備(株)秋田営業所
副会長	伊藤 俊也	伊藤電気(株)
会計幹事	大友 正敏	羽後電設工業(株)
技術担当幹事	仲野谷 崇	(有)伸和電工
企画担当幹事	池田 勝彦	(有)池田電機工事
総務担当幹事	小林 茂誠	小林電設(株)
監事	藤田 忠彦	松澤電気工事(株)
監事	時田 祐司	時田電機工業(株)

〔正会員〕

秋田電機建設(株)	千代田電気工業(株)
姉帯電気工業(株)	仁賀保電機工業(株)
(株)石郷岡電気工業	(株)布谷電機
(株)大塚電機工業	(株)ヌノタニ
(株)加島電気工事	本荘電気工業(株)
(株)柏谷電工	三菱マテリアル電子化成(株)
工藤電気工事(株)	日本海建設電気事業所
サン電気工業(株)	(株)ライトン



総合資格学院は
秋田県/全国合格実績

No.1

令和3年度 1級建築士 学科+設計製図試験

秋田県のストレート合格者の
3人に2人は当学院の当年度受講生!

66.7%
ストレート
合格者
占有率

秋田県ストレート合格者3名中／当学院当年度受講生2名

令和3年度 1級建築士 設計製図試験

全国合格者の
2人に1人以上は当学院の当年度受講生!

52.7%
合格者
占有率

全国合格者3,765名中／当学院当年度受講生1,986名

令和4年度は
より多くの受験生のみなさまを
合格へ導けるよう全力でサポートしてまいります!

令和4年度 1級建築士 学科試験

合格者占有率
目標

100%
全国



令和2年度 設備設計1級建築士講習 修了考査
当学院基準達成当年度受講生
修了率
82.4%
全国修了率
43.4%
その差
39.0%

申込区分I修了者のおよそ2人に1人は、当学院の
当年度受講生!
申込区分I(法適合確認+設計製図)修了者占有率
46.8%

申込区分I修了者47名中／当学院当年度受講生22名 (令和3年3月26日現在)

令和2年度 構造設計1級建築士講習 修了考査
当学院基準達成当年度受講生
修了率
64.0%
全国修了率
36.1%
その差
27.9%

令和3年度 建築設備士 第二次試験(設計製図)

当学院合格率
当年度実受験受講生
162名中／合格者118名
72.8%
全国合格率
52.3%に対して
その差
23.8%

独学者、
他スクール
利用者合格率
996名中／合格者 488名
49.0%

開講講座一覧 体験入学・受講相談受付中!
秋田校までお気軽にお問い合わせください!

1級・2級 建築士 1級・2級
建築施工管理技士 1級・2級
土木施工管理技士 1級・2級
管工事施工管理技士 1級
造園施工管理技士
構造設計1級建築士
建築設備士
建築設備取扱士
宅地建物取引士
賃貸不動産
経営管理士
インテリア
コーディネーター

法人サポートサービス実施中!
長年培った資格指導のノウハウをもとに、企業ニーズに最も適した研修プログラム・講習メニューをご用意!

合格ガイド
社内講習会&模擬試験
顧書取寄サービス
新卒採用支援
有資格者育成プラン作成
詳細は秋田校まで
お気軽にお問合ください!



総合資格学院



秋田校

秋田市中通1-4-32 秋田センタービル1F
TEL 018-874-9081

www.shikaku.co.jp | 総合資格 | 検索 | Twitter ⇒ '@shikaku_sogo' | LINE ⇒ 「総合資格学院」 | Facebook ⇒ 「総合資格 fb」で検索!

新入会員紹介

新入会員からのメッセージ



仙北建築士会
加藤 晴香

この度入会いたしました加藤晴香と申します。

建築・住宅を取り巻く法制度が大きく変わる中、その対応に追われながら大仙市大曲で業務に携わっております。

知識や経験がまだまだの若輩者ですが、周りの皆様のお力を借りしながら日々、勉強をかさねていきたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。



仙北建築士会
中野 光浩

この度、入会させて頂きました中野 光浩と申します。

以前父が、仙北建築士会に入会させて頂いていました、父が亡くなってしまい代わりにと言えば失礼ですが、入会させて頂くことになりました。

還暦も過ぎてしまい、頭も少し固くなっていると思います、若い人たちの考え方を取り入れさせて頂き、仕事に従事していきたいとおもっています。

宜しくお願ひ致します。

事務局だより

◆令和3年度（公社）日本建築士会連合会第2回東北ブロック会長会議◆

日時：令和3年12月13日（月）

場所：秋田キャッスルホテル

令和3年6月東北ブロック会総会は、新型コロナウィルス感染症の影響を勘案しWEB会議となりましたが、沈静化に伴い今年度初の対面会議となりました。東北各県会長様、及び北海道建築士会会长様が、各天候にも関わらず全員ご出席され、（公社）日本建築士会連合会の近角眞一会長様、成藤専務理事様を来賓としてお迎えいたしました。

審議は、東北ブロック会事業についての他、「第64回建築士会全国大会あきた大会」の実施計画の報告等が行われ、事業及び予算案について承認されました。PR映像等をご覧いただき、あきた大会に対する期待と多くの激励を頂戴いたしました。



東北ブロック会会長会議



北秋田市交流センター



大仙市大曲交流センター

◆建築士定期講習◆

令和3年度の（一社）秋田県建築士会が開催した建築士定期講習の概要（中間）を報告いたします。

CPD：6単位

月 日	会 場	定 員	受講者
7月20日（火）	秋田市文化会館	80	78
10月19日（火）	北秋田市交流センター	60	56
11月25日（木）	大仙市大曲交流センター	80	75
3月2日（水）	秋田市文化会館	104	未開催

今年度から開始された定期講習「動画方式」（講義はWEB上、考查のみ会場実施）は、12月8（水）に秋田市文化会館で開催いたしました。事前の周知が不十分で考查2回の受講者は11名と低調でしたが、次年度以降はある程度の受講者が見込まれます。

◆建築士試験◆

令和3年度の建築士試験の実受験数と合格人数 (名)

項目	一級	二級	木造
・学科の試験			
実受験者	(a)	117	117
合格者	(b)	15	42
合格率	(b) ÷ (a)	12.8%	35.9%
(全国合格率)		15.2%	41.9%
・設計製図の試験			
実受験者	(c)	31	72
内、製図から	(d)	18	39
最終合格者	(e)	6	41
合格率	(e) ÷ (c)	19.4%	56.9%
(全国合格率)		35.9%	48.6%
最終合格率	(e) ÷ {(a) + (d)}	4.4%	26.2%
(全国最終合格率)		9.9%	23.6%
			33.0%

令和3年度の二級建築士合格者は、41名で、昨年の49名を若干下回りましたが、最終合格率は全国平均より高くなっています。また、木造建築士は合格者無し、一級建築士合格者は、6名（昨年10名）の方が合格されました。

建築士法改正により、受験資格から実務を除いたことから受験者数が増えるとの情報がありましたが、二級建築士は19%減、一級建築士は3%増加との結果となりました。

◆建築甲子園◆

昨年度は中止となった「建築甲子園」でしたが、2021年 第11回大会として実施の運びとなりました。今年のテーマは、「地域のくらしーこれからの地区センター」です。

今年は、秋田工業高等専門学校より応募がありました。秋田県予選は選考委員（事業委員会の広報・教育支援部会の委員9名）による採点方式で行われ、結果、下記の作品が県代表として全国大会へ進出しました。

審査委員長：戸館博康（事業委員会 広報・教育支援部会長・鹿角）

審査員：黒沢賢（鹿角）、三浦英人（大館北秋田）、村喜代宣（能代山本）、谷口満州美（秋田中央）、
佐藤孝一（由利）、戸嶋真紀子（仙北）、黒田 稔（横手）、由利 靖（湯沢雄勝）

◇作品

すきまコミュニティ～無人駅と地区センターの開発～

秋田工業高等専門学校 創造システム工学科土木・建築系

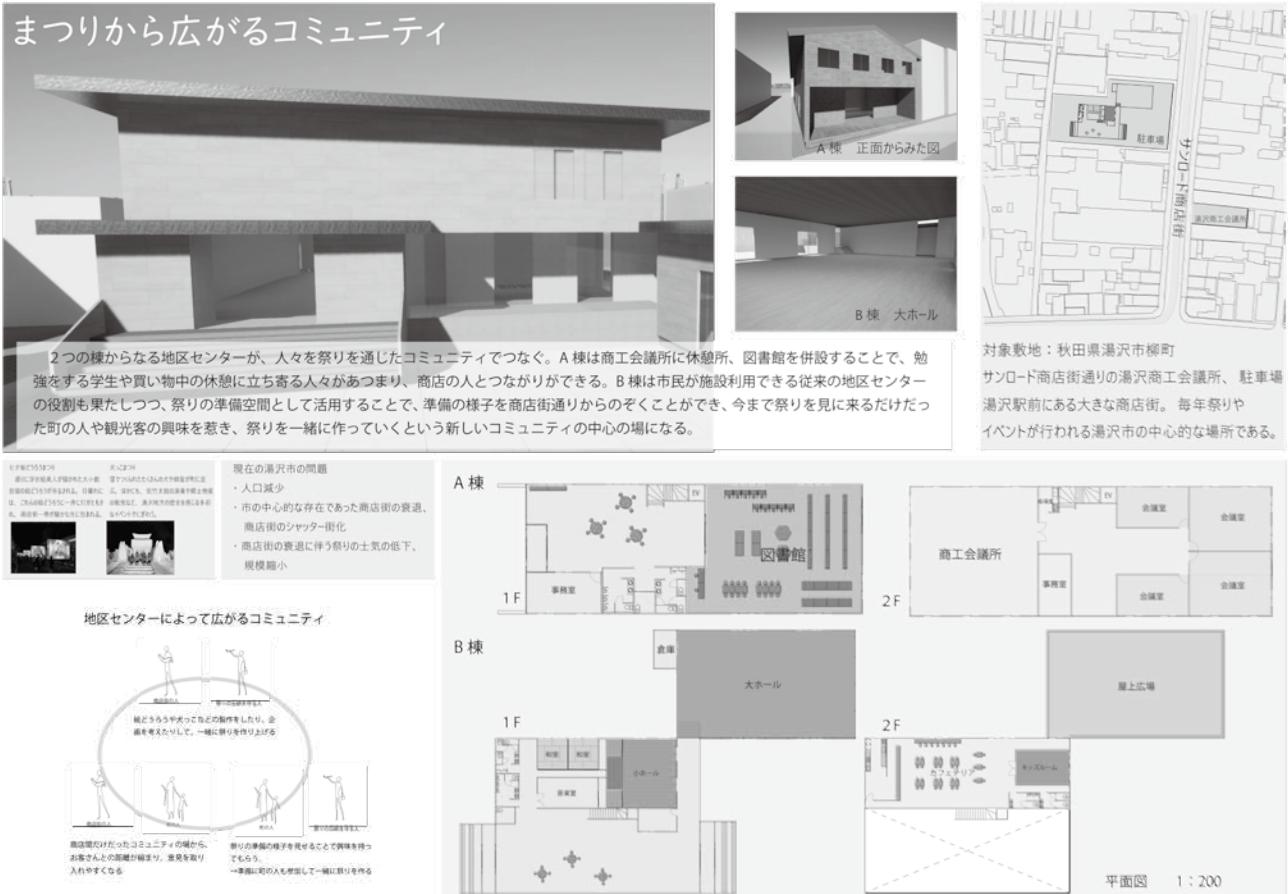
樋渡 美乃 さん、上田 晴也 さん、長谷川楽来 さん

評価点：71.6点（100点）

【講評抜粋】

- ・地域の魅力「まつり」をキーワードに、離れた2つの建物機能の組合せや、人の行動にきっかけを与えることにより、地域の課題解決を図っている。人の動きの変化やまちの雰囲気の変化を想像できる提案である。
- ・同地区は『犬っこまつり』『絵灯ろう祭』『大行列』『たんせ市』『うどんエキスポ』など年間を通してイベントが多く開催されており、近辺のさまざまな施設が利用されている。古い町並みではあるが『総合拠点』地区センターとして多くの人々の憩いの場となり、更には観光客との接点も期待され、イベント以外でも活用される潜在能力を持っている。
- ・「地区センター」として、A棟に設置している学生（若者）が集う図書館、商店の人（大人）の集う商工会議所、B棟には町の人（女性や子供）の集うカフェテリア及び隣接するキッズルームを設けるなど、年代、男女の交流も考慮されており、より多くの人的交流を行おうとしている事は充分に理解できる。
- ・「まつりから広がるコミュニティ」と題し、地域活性の起爆剤となりうる「祭り」に目を向けているが、

まつりから広がるコミュニティ



どのスペースでコミュニティが取られているのか、エントランスホールに展示スペース等があるのか、ただ作業を見ているだけなのか、どのように一緒に作っていくのか、最も大事な部分が不足しているように思われる。

- ・A棟とB棟の繋がりを意識してほしかった。外観のシンクロなど表現されていれば面白かった。平面プランにおいては、数ヵ所のデッドスペース、A棟女子トイレやB棟2階男子トイレなどの計画の甘さが若干見られる。
- ・冬の雪対策は積雪地域では必須である。市街地の悩みである駐車場等にも踏み込んでいたらよかったです。

◆令和3年 県内市町村が行う木造住宅耐震診断支援事業◆

事業開始5年目となりました木造住宅耐震診断支援事業は、今年度は18市町村が実施することとなりました。当会では14市町村との契約のもと、該当市町村の依頼により本会の登録している建築士会会員を選任し、申請者住居の診断を行っております。

【本会と契約済みの市町村】

- 県 北：鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市、能代市
- 県中央：秋田市、男鹿市、五城目町、由利本荘市
- 県 南：大仙市、横手市、美郷町、仙北市、湯沢市

【診断を行う要件】全てに該当する方

- ・(一社) 秋田県建築士会の会員であること
- ・建築士事務所に所属し、その建築士事務所が耐震診断業務を受託可能であること
- ・県が認める講習会を受講し、秋田県木造住宅耐震診断技術者として登録していること（平成29年3月10日から登録開始）※登録はこちらから、県HP：<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/22034>

【診断方法】

- ・「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」一般診断法による診断プログラム Wee2012
((一財)日本建築防災協会発行)による
- ・委託市町村が別に定める仕様書、及び当会耐震診断実施要領による。

当会では、木造住宅耐震診断の実施要領の策定及び報告書の様式など、本事業以外にも活用できるよう整備を行っております。

○今年度の受諾状況

12月25日現在、14市町村より29棟の診断を受託しております。

・小坂町	2戸	・鹿角市	1戸	・大館市	1戸
・北秋田市	3戸	・能代市	2戸	・男鹿市	3戸
・五城目町	1戸	・秋田市	4戸	・由利本荘市	1戸
・大仙市	2戸	・横手市	5戸	・美郷町	1戸
・仙北市	2戸	・湯沢市	1戸		

第 64 回建築士会全国大会あきた大会 運営スタッフとして参加しましょう！！

令和 4 年 10 月 14 日（金）、建築士全国大会が 41 年ぶりに秋田市で開催されますことは、ご承知のとおりです。当会では実行委員会を組織し企画を進めてまいりましたが、あと残り期間 10 ヶ月を切りいよいよ準備作業等も佳境に入ってまいりました。

全国から 2800 人の建築士が集う「あきた大会」を、約 200 名の秋田士会スタッフでお迎えすることとしております。そのためには多くの会員の皆さまのご協力が必要です。

ぜひ、大会に運営スタッフとして参加していただきたいとお願い申し上げます。

◇運営スタッフ募集日程◇ ※時間帯単位でご参加ください。

- (1) 令和 4 年 10 月 13 日（木） 内容：各種準備（袋詰め、会場設営他）、各所お迎え誘導他
・時間帯：午前、午後、夕方（～ 21:00）
- (2) 令和 4 年 10 月 14 日（金） 内容：式典本番、各所にてスタッフとして対応
・時間帯：午前、午後、夕方（～ 21:00）
- (3) 令和 4 年 10 月 15 日（日） 内容：エクスカーション対応、片付け等
・時間帯：午前、午後

各スタッフの取りまとめは、各地域会にて行います。後日、ご案内がありますので、日程等調整の上、ご参加していただきますようお願いいたします。

第 64 回建築士会全国大会あきた大会実行委員会事務局



大会 HP はこちらから



QR コード

忘れてませんか！ 建築士定期講習のお知らせ

平成20年11月28日施行の改正建築士法により、建築士事務所に所属するすべての建築士は、登録講習機関が行う定期講習を3年以内ごとに受講しなければなりません。

建築士事務所に所属する方で、平成30年度に建築士定期講習を修了した方及び平成30年度以前に建築士試験に合格し建築士として登録した方でまだ受講していない方は、令和3年度中に当該建築士定期講習を受講しなければなりません。

今回は令和3年度の最後の講習になりますので是非受講をお勧めします。

第4回定期講習（1E-04）

と き：令和4年3月2日(水)

と こ ろ：秋田市文化会館 5階大会議室

募集期間：令和4年2月19日 締切

登録講習機関 公益財団法人 建築技術教育普及センター

受付機関 (一社)秋田県建築士会 事務局

受講申込書を希望する方は、事務局までお問い合わせ下さい。

電話 018-827-3718 FAX 018-827-3873

編 集 後 記

能代山本建築士会 大 高 勇

年が明けていよいよ、全国大会の開催に向けて拍車がかかってきた感がある。昨年の広島大会（東京会場）に現地参加してあきた大会をPRしてきたが、受付会場のブースではたくさんの参加者に声をかけたり、かけられたり、交流を通じて期待と強い使命感を持って帰ってきた。40年ぶりに全国大会が秋田で開催される折、巡り合わせとなった会長はじめ事務局の忙しさには、かける言葉が見つからないほど。大成功で終えるよう自分にできる事を精一杯実行するのみである。

会誌「建築士」12月号に田仲雅美副会長より寄稿があった。県建築士会をリードした偉人として、元会長の中村豪氏（故人）を紹介している。掲載の写真にある彫刻家の書は私も気に入り、事務所の壁に掛けてある。氏は全県青年大会がある度に持ち回りの各会場に足を運び「100人集会を目指せ！」と激！当時参加者が少なかった大会で決まり文句のように第一声を放っていた。中村会長時代に開催された40年前の秋田大会は、33年前に入会した私は経験しておらず語ることができないが、能代の高橋秀孝氏（故人）から頻繁に聞いて記憶に残っている事がある。

前回全国大会時、昭和56年に高橋氏は青年委員会の役員（委員長と記憶している）。大会1週間前から会場に布団を持ち込み、奥さんを呼んで煮炊きしてもらって、何人か連泊しながら準備に当たったそう。中村豪会長の強い指示の下、大変な作業だったと語っている。高橋氏は後年、私と同じ理事会に出席する立場となり、よく秋田市の会議場まで往復同乗するようになった。道中、この大会準備の苦労話を何度も聞かされて、布団の件だけは驚きと共に頭に残っている。また能代工業高校の同窓会長もしていたとかで、向こうで今の新統合校名をどう感じているだろうか？。後年、士会役員を引退する間際に会員数減少を嘆いていた事がある。人口減や資格者情報守秘もあり、会員数が当時2割以上の減となっている現状をみて、「身の丈に合った事業を！」と、何度も言っていた。できる範囲で無理をするなという事もあるが、会費が年々不足する中でも、会議や事業の回数が旧態のままでは経費が不足するばかりと、それに大いに賛同した。事務局が変わって数年後、10あった委員会が青年委、女性委を残し、あとは部会と称され事業委と総務委の中に位置するようになった。氏が引退してからこの言葉どおり？になったのだが、中には全国的に委員会として残すべき事業もあつたのは確かで、思えばいまだに短期で行われた仕分け作業に悔いが残る形となっている。

何はともあれ、今年は「第64回建築士会全国大会あきた大会」がメイン事業。そして「秋田県建築士会創立70周年」という節目にも当たる偶然に、喜びと期待をもつて先人の苦労とは違う形で大会の成功に尽力したいと思う。

(裏表紙から続く)



でした。

大会旗引継に続くあきた大会のPRは、青年委員と女性委員とで構成するデザイン部会が自主制作したあきたPR動画からスタート。青谷あすかさんの「うつくしい秋田」をBGMに県内の観光地や建築物などを紹介。清々しい気持ちと秋田の良さを感じさせてくれる素晴らしい映像と音楽でした。

続いて淡路会長以下役員6名が幟とポスターを手に登壇し、会長の秋田弁を交えた軽妙な招致あいさつから、会員参加型PR動画け・け・けの映像に会場の雰囲気も大いに和み、会場の全員が秋田に吸い込まれていくような、そんな心地よい感覚の中でPR活動は終了しました。



ポスターやスタッフジャーの斬新・大胆さやPR動画の暖かさなどに、大会参加者やスタッフから多くの賛辞を戴き、「あきた大会」に向けてとても良い感触を得ながら、今回のPR活動の成功を感じています。

一年延期の末に現地開催を断念せざるを得なかった広島県建築士会の方々の無念を晴らすべく、「あきた大会」には全国から数多くの建築士の皆さんに来県していただき、秋田のおいしい物をたくさん食べて建物を見て楽しんでほしいと願い思っています。

「け・け・けの秋田で、まずかだれ」ですね。



2021.11.20.



第63回建築士会全国大会「広島大会」PRブースにて

あきた建築士会ニュースNo.157 (2022年1月号)

発行／一般社団法人秋田県建築士会 住所／〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8秋田アトリオンビル5階(一財)秋田県建築住宅センター内 電話／018-827-3718
編集／一般社団法人秋田県建築士会事務局 発行日／令和4年1月20日 印刷／秋田協同印刷株式会社